

大和市 高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画 (第 10 期)策定のための実態調査 調査結果 **【概要版】**

I 調査の概要

調査の目的

第 10 期大和市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の策定のため、高齢者保健福祉及び介護保険に関連する業務について、市民の意識・ニーズ等の実態調査を行った。本報告書は、その調査結果をとりまとめたものである。

調査対象・方法・期間

調査名	対象者
高齢者保健福祉計画 介護保険事業計画 策定のための実態調査	【一般高齢者対象調査】 65 歳以上の無作為抽出の高齢者 (介護予防・日常生活支援総合事業対象者、要支援認定者、要介護認定者を除く)
	【要支援認定者等対象調査】 無作為抽出の介護予防・日常生活支援総合事業対象者、要支援認定者
	【要介護認定者対象調査】 無作為抽出の要介護認定者
在宅介護実態調査	在宅で生活をしている要支援・要介護認定を受けている方のうち、調査期間中に、更新申請・区分変更申請に伴う認定調査を受けた方
介護保険サービス 供給量調査	市内に事業所を置く介護保険サービス事業者（法人ごと） (居宅介護支援事業所及び地域包括支援センター除く)
居宅介護支援事業所調査	市内の居宅介護支援事業所及び地域包括支援センター（事業所ごと）
居所変更実態調査	市内の住宅型有料老人ホーム、軽費老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅

調査方法：郵送配布・郵送回収（在宅介護実態調査以外）

対象者宅を訪問し、その場で聞き取り（在宅介護実態調査）

抽出方法：母集団の日常生活圏域ごとの構成割合を加味した人数を無作為で抽出

調査期間：令和 8 年 2 月 6 日～令和 8 年 5 月 8 日（在宅介護実態調査以外）

令和 7 年 12 月 4 日～令和 8 年 4 月 27 日（在宅介護実態調査）

回収状況

調査名		対象数	回収数	回収率	集計対象数※		対象外・無効	有効回収率
高齢者保健福祉計画 介護保険事業計画策定のための 実態調査	一般高齢者	5,000	3,328	66.5%	国モデル	3,322	3	66.4%
					市独自	3,325		66.5%
	要支援認定者等	2,000	1,461	73.1%	国モデル	1,459	0	73.0%
					市独自	1,461		73.1%
	要介護認定者	2,500	1,302	52.0%	国モデル	1,143	4	45.7%
					市独自	1,298		51.9%
在宅介護実態調査		600	600	100.0%	600		0	100.0%
介護保険サービス供給量調査		152	83	54.6%	83		0	54.6%
居宅介護支援事業所調査		63	50	79.4%	50		0	79.4%
居所変更実態調査		37	24	64.9%	24		0	64.9%

※国モデルの設問は国の指針に基づいて施設入所者を除外して集計、市独自の設問は施設入所者を含めて集計

Ⅱ 一般高齢者・要支援認定者等・要介護認定者 調査結果

基本属性・生活状況

【日常生活圏域】 (%)						
	下鶴間	中央林間	南林間	鶴間	深見大和	上草柳
一般高齢者	16.2	9.9	12.2	9.5	9.9	5.4
要支援認定者等	14.3	10.5	11.9	10.3	10.6	5.3
要介護認定者	15.9	10.6	12.8	10.6	10.5	5.1
	中央	桜丘	和田	福田北	福田南	無回答
一般高齢者	8.2	4.5	7.1	6.1	11.0	0.1
要支援認定者等	7.7	5.1	6.8	6.4	11.0	0.0
要介護認定者	7.4	5.1	5.4	6.6	9.9	0.2

【性別】 (%)			
	男性	女性	無回答
一般高齢者	47.5	52.4	0.1
要支援認定者等	31.7	68.3	0.0
要介護認定者	38.1	61.7	0.2

【年齢】 (%)								
	40～64 歳	65～69 歳	70～74 歳	75～79 歳	80～84 歳	85～89 歳	90 歳以上	無回答
一般高齢者	(対象外)	20.0	22.5	28.3	18.5	8.3	2.3	0.1
要支援認定者等	1.5	2.4	6.9	18.1	29.8	27.7	13.6	0.0
要介護認定者	2.9	3.9	5.9	13.4	23.2	26.0	24.6	0.2

【世帯構成】 (%)							
	ひとり暮らし	夫婦二人暮らし (配偶者 65 歳以上)	夫婦二人暮らし (配偶者 65 歳未満)	子と同居	高齢者施設 等に入所	その他	無回答
一般高齢者	20.9	39.7	4.3	30.2	0.5	3.5	0.9
要支援認定者等	35.0	27.2	2.1	30.6	1.7	1.8	1.6
要介護認定者	17.5	26.9	4.0	40.1	7.3	3.5	0.7

【介護度】 (%)									
	総合事業	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	無回答
要支援認定者等	16.0	39.4	44.6	(対象外)					0.0
要介護認定者	(対象外)			35.2	27.1	14.9	13.3	9.3	0.2

【経済状況】 (%)						
	大変苦しい	やや苦しい	ふつう	やや ゆとりがある	大変 ゆとりがある	無回答
一般高齢者	6.6	22.5	60.4	7.9	1.5	1.0
要支援認定者等	8.4	24.5	57.4	6.7	0.5	2.5
要介護認定者	12.7	30.3	48.7	6.1	0.9	1.3

【住居形態】 (%)									
	持家 (一戸建て)	持家 (集合住宅)	民間賃貸 (集合住宅)	公営賃貸	民間賃貸 (一戸建て)	高齢者向け住宅 高齢者施設等	社宅 宿舎	その他	無回答
一般高齢者	58.3	23.5	11.1	4.6	1.5	0.1	0.0	0.2	0.5
要支援認定者等	64.8	15.6	11.0	5.3	0.9	0.6	0.0	0.2	1.6
要介護認定者	65.4	15.5	8.8	4.9	1.4	2.3	0.0	0.2	1.5

からだを動かすことについて

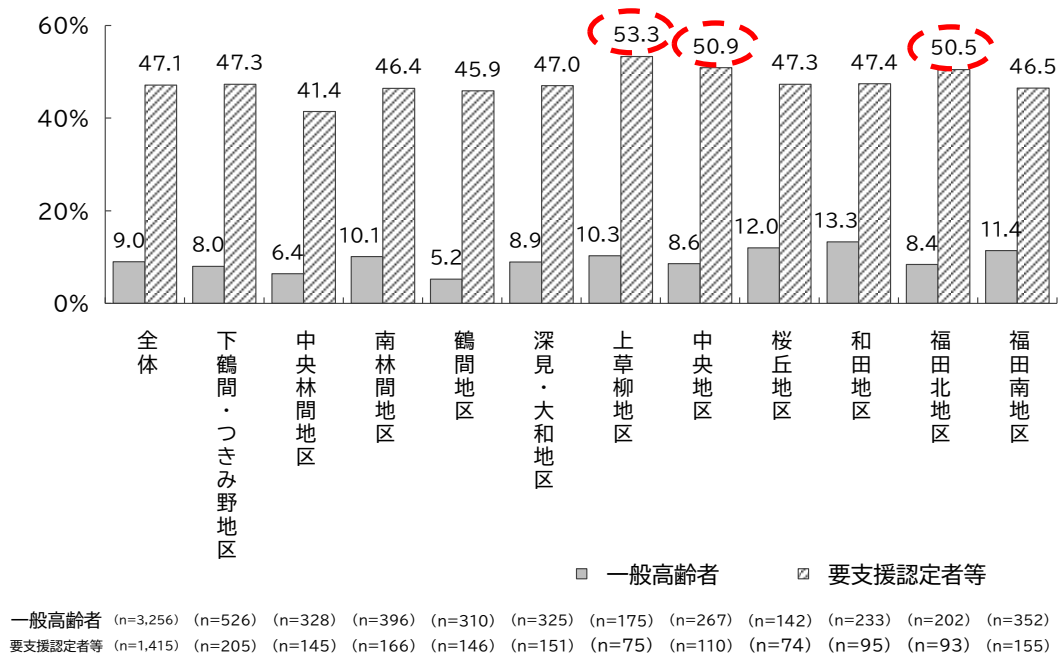
■ 運動器リスク該当者

厚生労働省の基本チェックリスト（運動機能）の手引きをもとに、各調査票の以下の設問を抽出し、5項目のうち3項目以上に該当する人を“運動器のリスク該当者”と判定した。

<判定設問>

問番号		設 問	該当する選択肢
一般	要支援等		
問5	問6	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。	・できない
問6	問7	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。	・できない
問7	問8	15分位続けて歩いていますか。	・できない
問8	問9	過去1年間に転んだ経験がありますか。	・何度もある ・1度ある
問9	問10	転倒に対する不安は大きいですか。	・とても不安である ・やや不安である

【クロス集計：一般高齢者・要支援認定者等：日常生活圏域別】



日常生活圏域別にみると、ほとんどの日常生活圏域において一般高齢者で1割前後、要支援認定者等で4割台となっているものの、要支援認定者等の《上草柳地区》・《中央地区》・《福田北地区》では半数を超えて多くなっている。

毎日の生活について

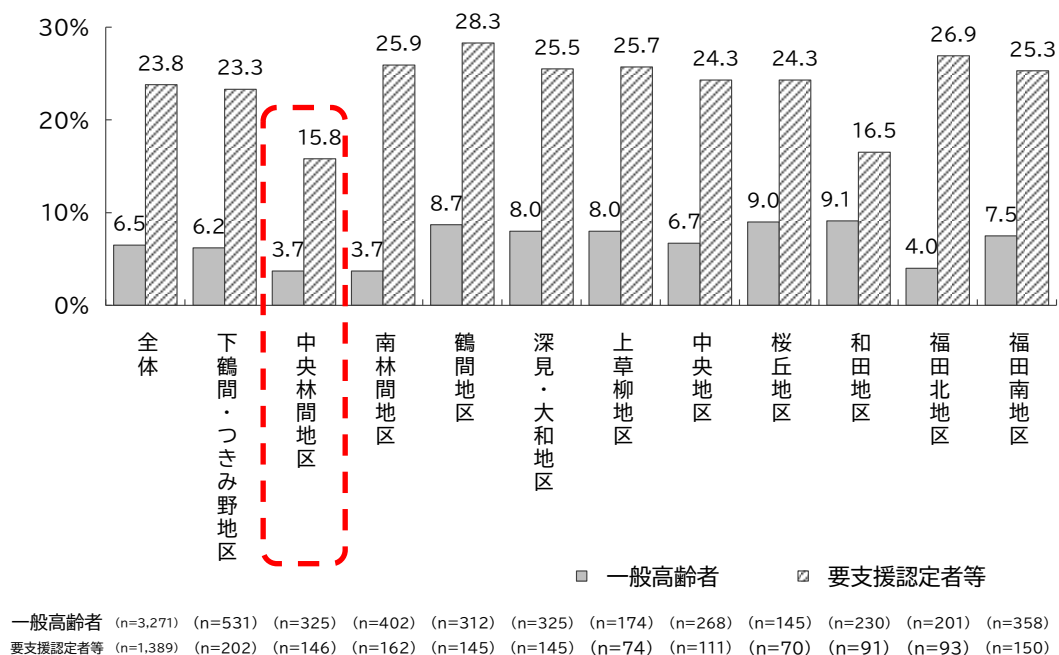
■ 手段的自立度(IADL)

高齢者の比較的高次の生活機能を評価することができる老研式活動能力指標には、高齢者の手段的自立度(IADL)に関する設問が5問(一般高齢者:問23~問27・要支援認定者等:問24~問28)あり、「手段的自立度(IADL)」として尺度化されている。評価は、各設問に「できるし、している」または「できるけどしていない」と回答した場合を1点として、5点満点で評価し、5点を「高い」、4点を「やや低い」、3点以下を「低い」と評価しており、4点以下を手段的自立度の低下者とし、低下者の割合を示している。

<判定設問>

問番号		設 問	該当する選択肢
一般	要支援等		
問23	問24	バスや電車を使って1人で外出していますか。	・できるし、している：1点 ・できるけどしていない：1点 ・できない：0点
問24	問25	自分で食品・日用品の買物をしていますか。	
問25	問26	自分で食事の用意をしていますか。	
問26	問27	自分で請求書の支払いをしていますか。	
問27	問28	自分で預貯金の出し入れをしていますか。	

【クロス集計：一般高齢者・要支援認定者等：日常生活圏域別】

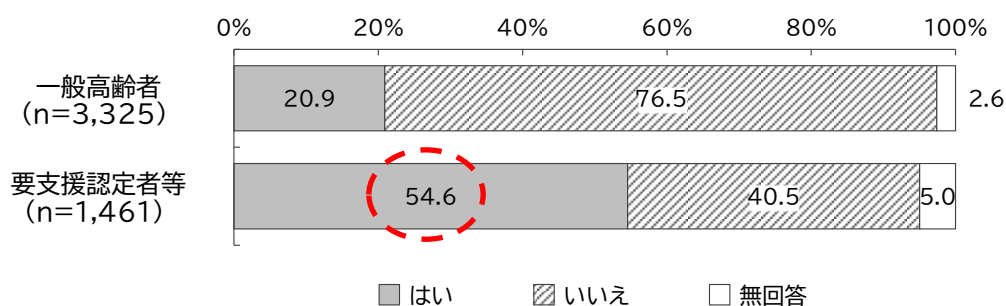


日常生活圏域別にみると、ほとんどの日常生活圏域において一般高齢者で1割未満、要支援認定者等で2割台となっているのに対し、《中央林間地区》では一般高齢者・要支援認定者等ともに他の日常生活圏域より少なくなっている。

《一般高齢者：問 31・要支援認定者等：問 32》

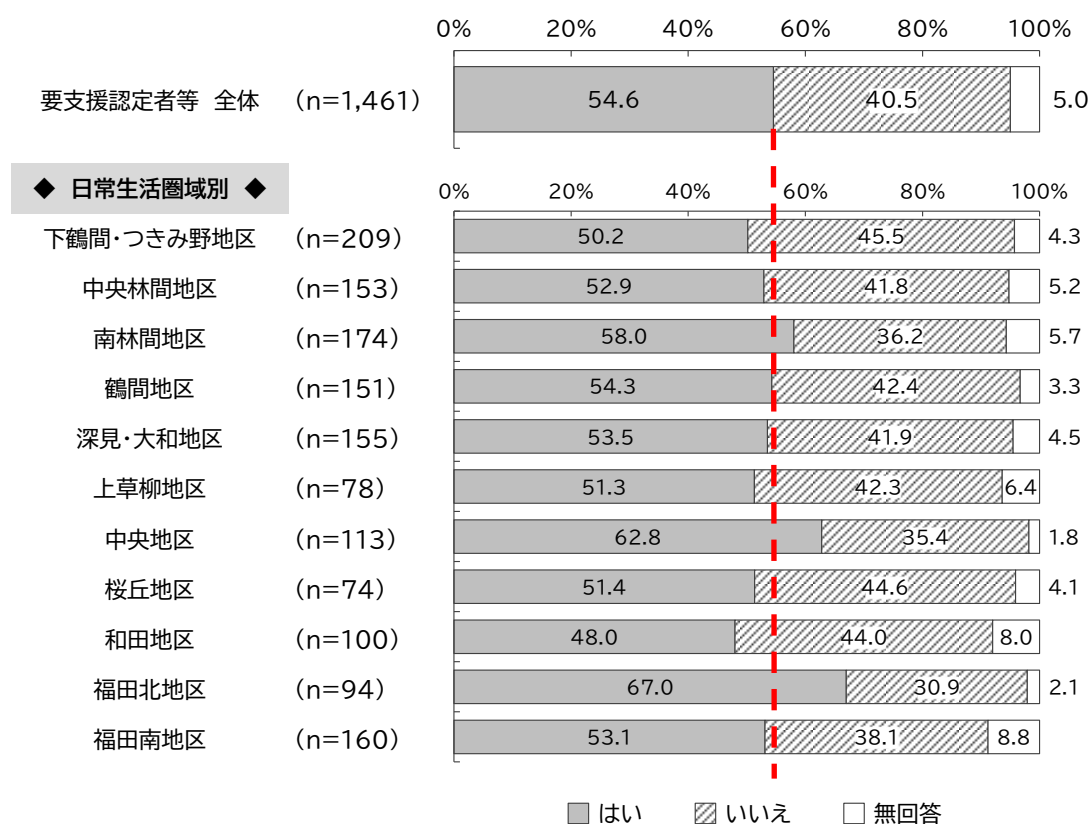
日常生活で困っていることや不安に感じていることはありますか。(単数回答)

【単純集計】



日常生活で困っていることや不安に感じていることの有無は、一般高齢者において「いいえ」が多くなっているのに対し、要支援認定者等においては「はい」が多くなっている。

【クロス集計：要支援認定者等：日常生活圏域別】



【要支援認定者等】

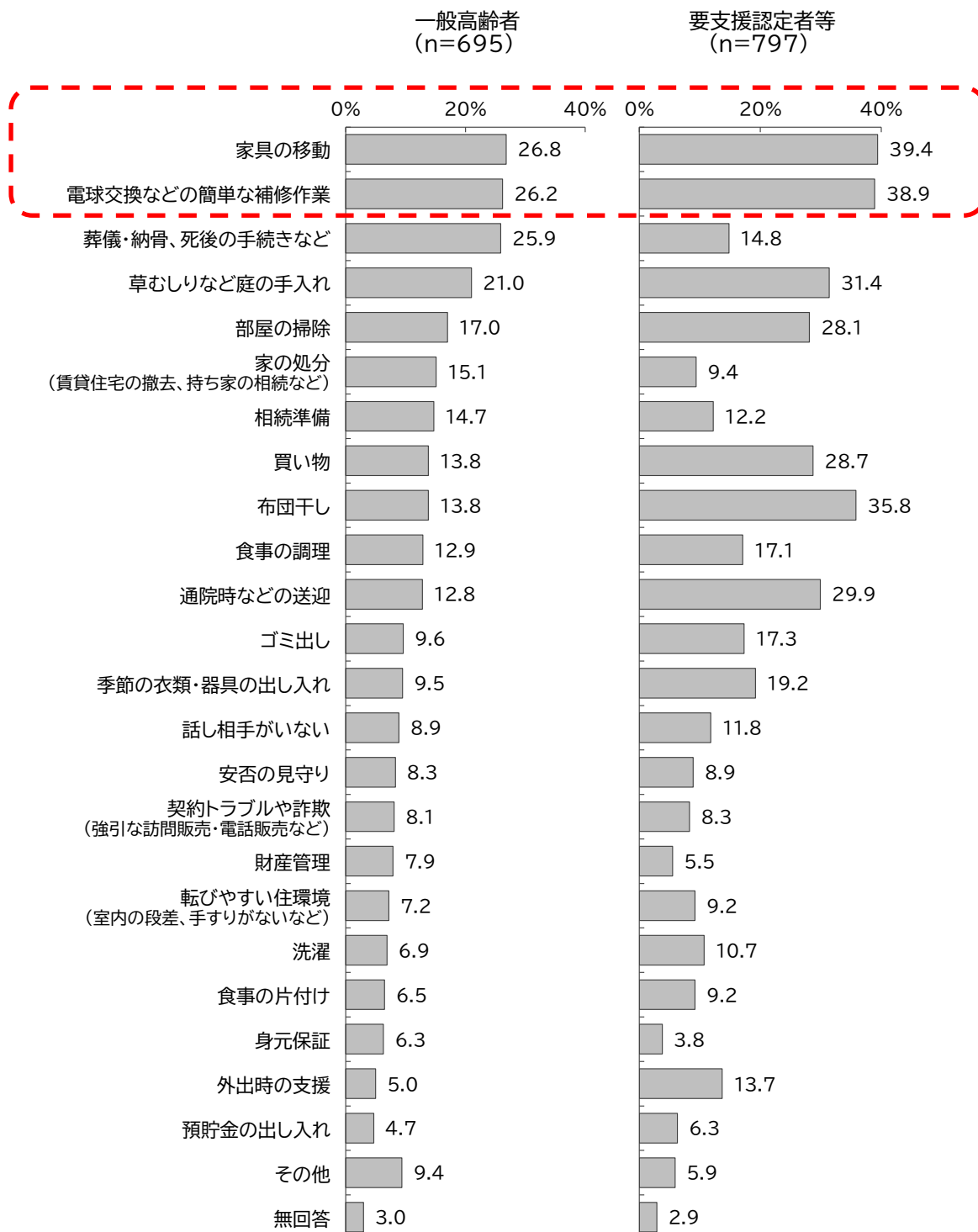
日常生活圏域別にみると、《南林間地区》・《中央地区》・《福田北地区》・《福田南地区》で「いいえ」が4割を下回って他の日常生活圏域より少なくなっている。

一般高齢者：問 31・要支援認定者等：問 32 で「はい」と回答した方のみ

《一般高齢者：問 31－１・要支援認定者等：問 32－１》

それは、具体的にどのようなことですか。（複数回答可）

【単純集計】



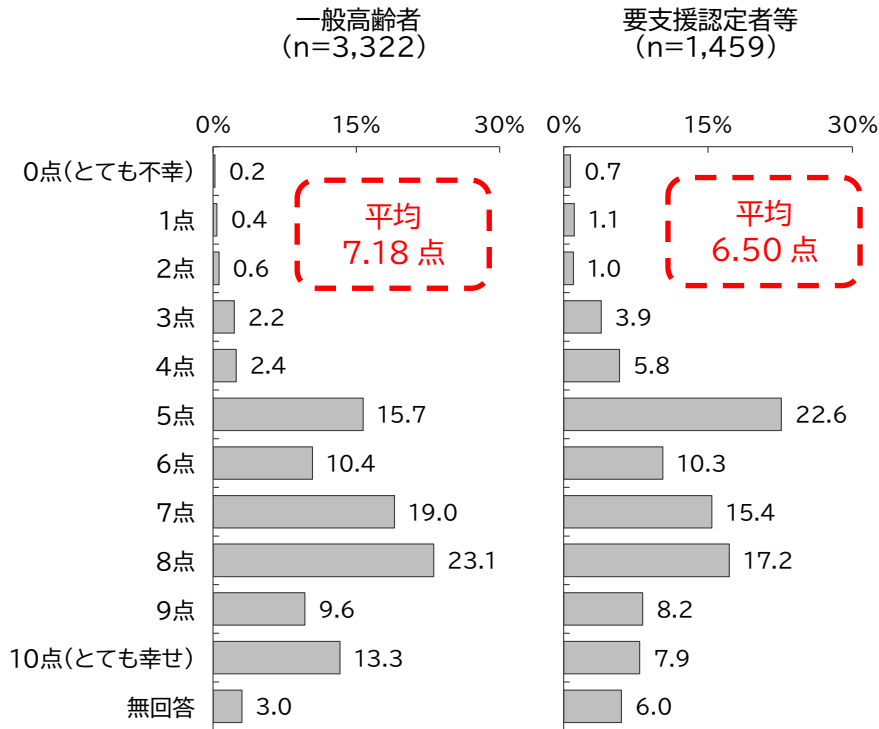
日常生活で困っていることや不安に感じていることは、一般高齢者・要支援認定者等ともに、「家具の移動」、「電池交換などの簡単な補修作業」が多い。一般高齢者はそれらに次いで「葬儀・納骨、死後の手続きなど」が続くが、要支援認定者等は、「布団干し」、「庭の手入れ」が続く。

健康について

《一般高齢者：問 40・要支援認定者等：問 41》

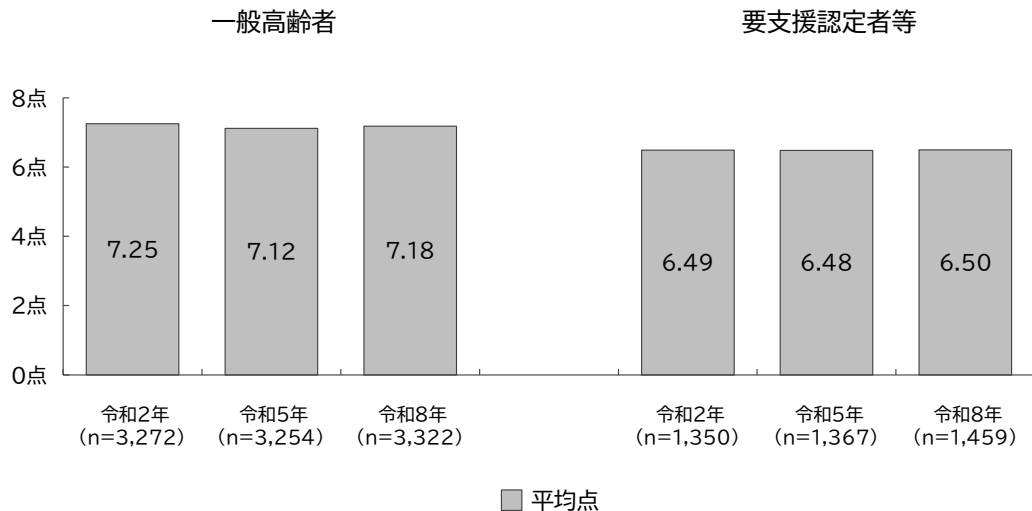
現在どの程度幸せですか。（単数回答）

【単純集計】



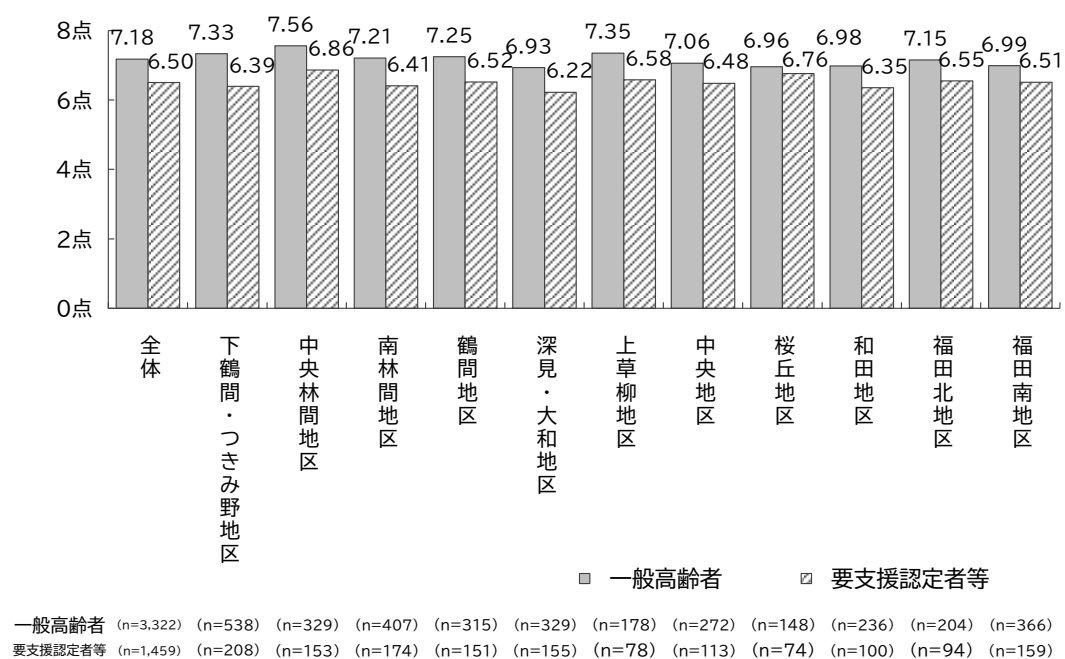
幸福度は、『6点以上』が、一般高齢者で 75.4%、要支援認定者等で 59.0%と、一般高齢者の方が要支援認定者等より 16.4 ポイント高くなっている。平均点は、一般高齢者で 7.18 点、要支援認定者等で 6.50 点となっている。

【経年比較】



前回、前々回と比較してみると、一般高齢者・要支援認定者等ともに大きな差異はみられず、一般高齢者で 7.20 点程度、要支援認定者等で 6.50 点程度となっている。

【クロス集計：一般高齢者・要支援認定者等：日常生活圏域別】



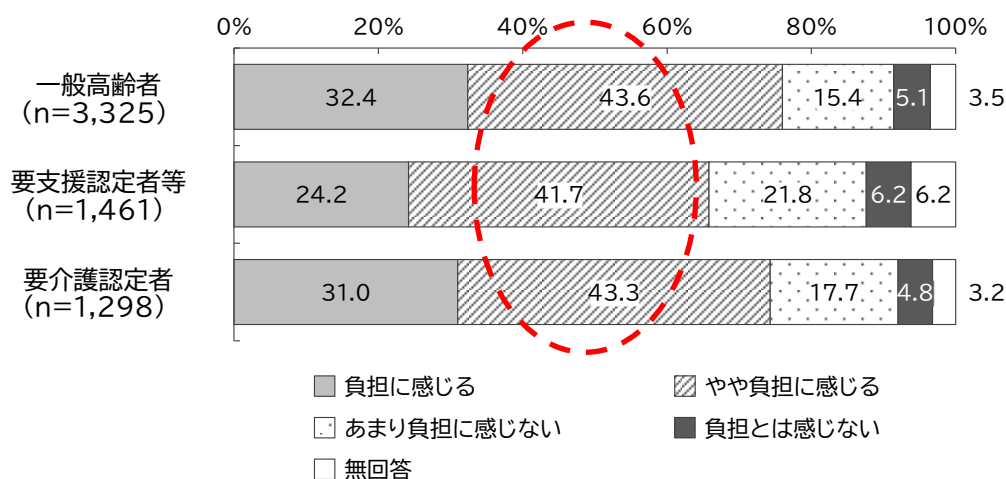
日常生活圏域別にみると、すべての日常生活圏域において一般高齢者で7点前後、要支援認定者等で6点台と、大きな差異はみられない。

介護保険制度等について

《一般高齢者：問 46・要支援認定者等：問 46・要介護認定者：問 8》

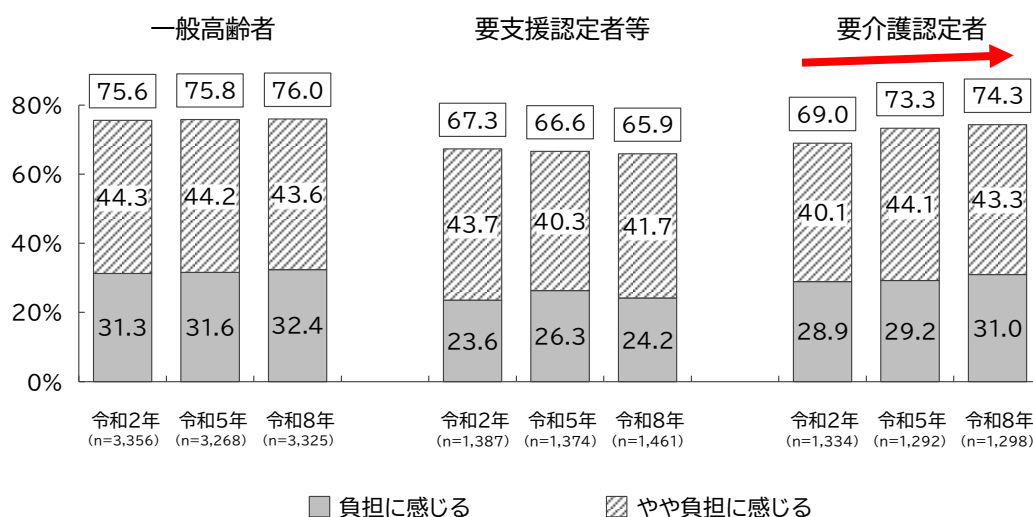
介護保険料の負担について、どのように感じていますか。(単数回答)

【単純集計】



介護保険料の負担は、一般高齢者・要支援認定者等・要介護認定者のすべてにおいて「やや負担を感じる」が最も多く、「負担を感じる」、「あまり負担に感じない」が続く。また、『負担（負担を感じる＋やや負担を感じる）』は、一般高齢者で 76.0%、要支援認定者等で 65.9%、要介護認定者で 74.3%と、要支援認定者等で少なくなっている。

【経年比較】

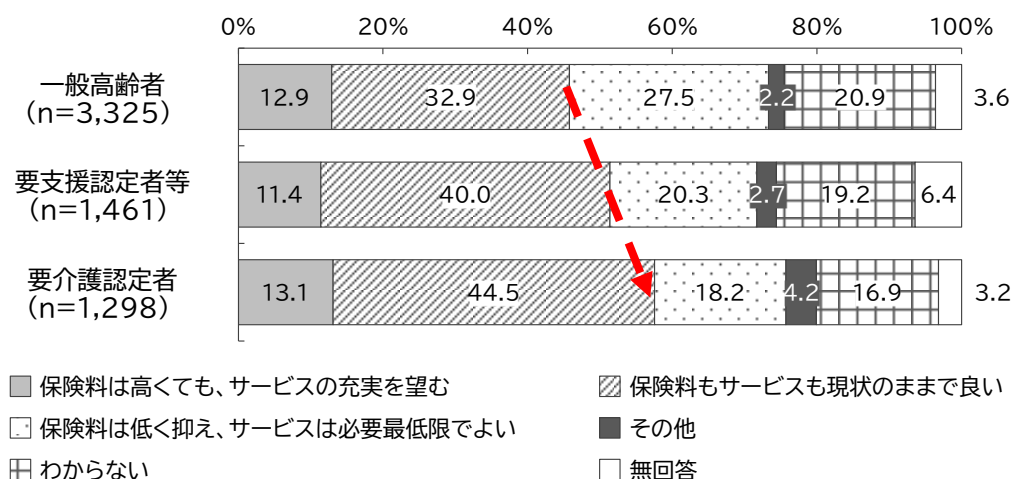


前回、前々回と比較してみると、『負担（負担を感じる＋やや負担を感じる）』は一般高齢者・要支援認定者等ともに大きな差異はみられないものの、要介護認定者においては増加傾向がみられる。

《一般高齢者：問 47・要支援認定者等：問 47・要介護認定者：問 9》

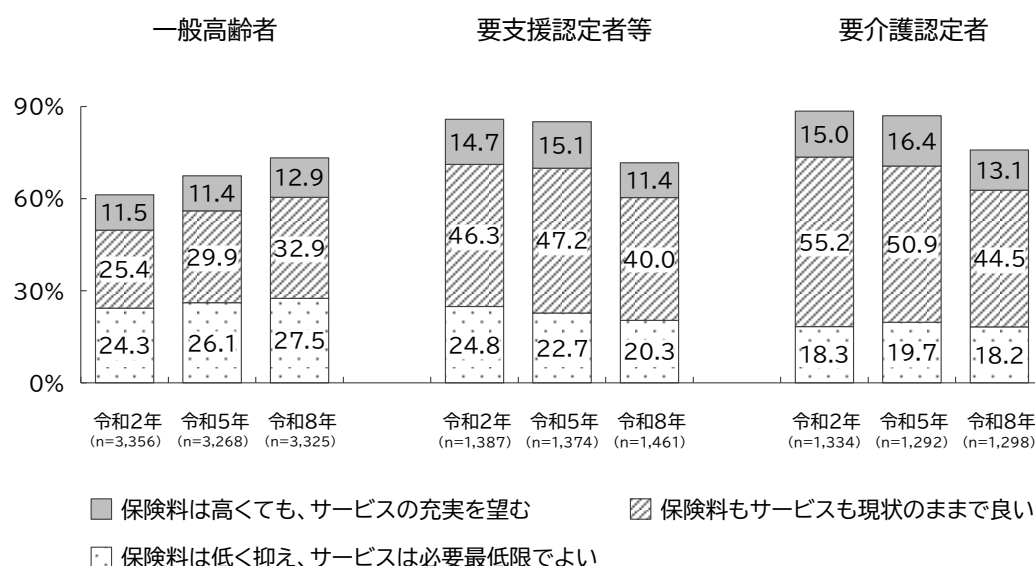
介護保険料の額は、市民の利用が見込まれる介護保険サービスの量によって決まります。
今後の保険料とサービスのあり方について、あなたはどのように考えますか。（単数回答）

【単純集計】



今後の保険料とサービスのあり方についての考えは、一般高齢者・要支援認定者等・要介護認定者のすべてにおいて「保険料もサービスも現状のままで良い」が最も多く、「保険料は低く抑え、サービスは必要最低限でよい」、「わからない」が続く。また、介護を必要とするほど「保険料もサービスも現状のままで良い」が多く、「保険料は低く抑え、サービスは必要最低限でよい」が少なくなっている。

【経年比較】



※令和2年、令和5年の要支援認定者等・要介護認定者においては、「わからない」という選択肢は設けていないため、こちらの2つは参考比較となる。

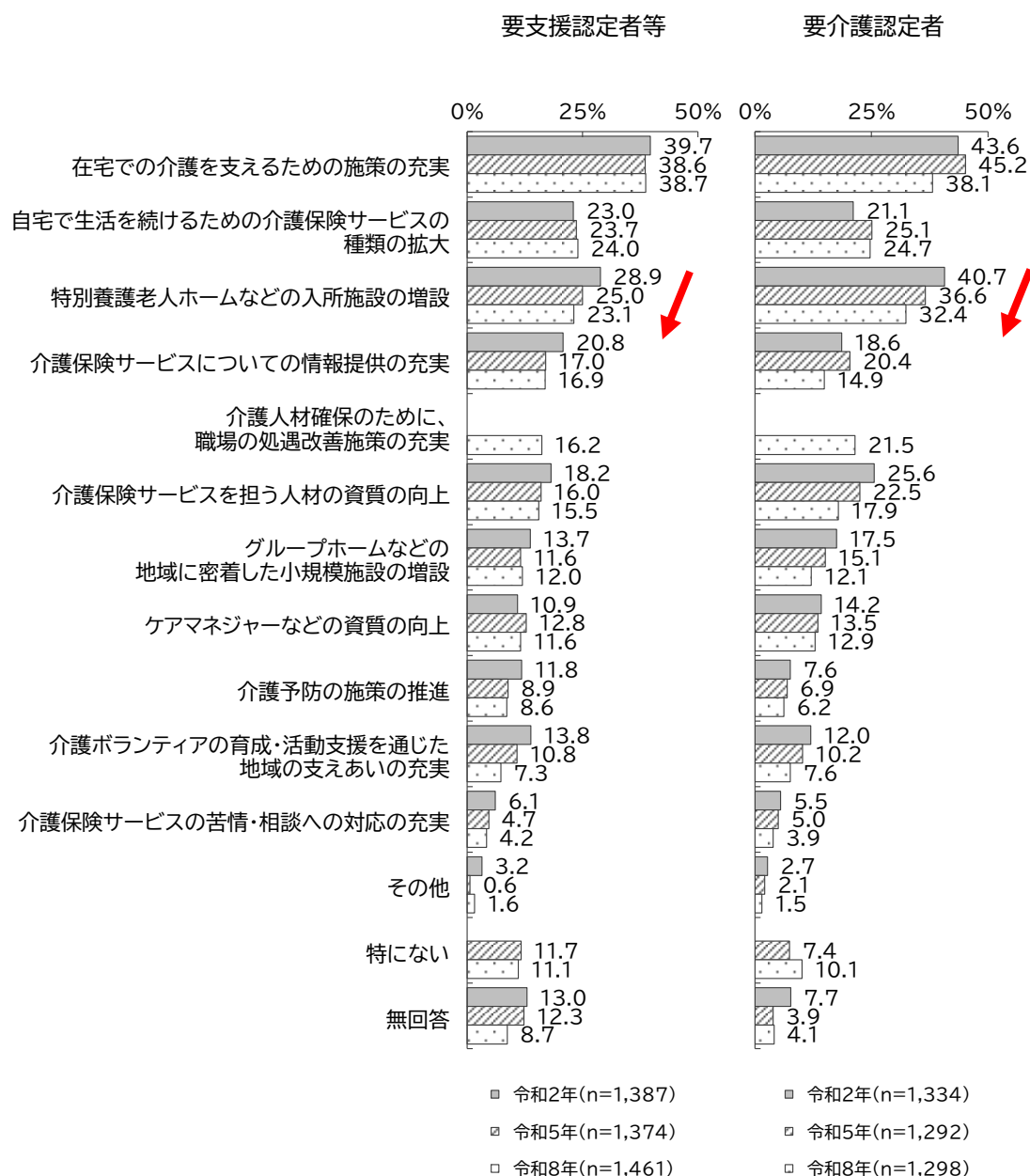
前回、前々回と比較してみると、「保険料もサービスも現状のままで良い」は、一般高齢者において増加傾向、要介護認定者において減少傾向がみられる。また、要支援認定者等においては令和5年までは横ばい傾向にあったのに対し、令和8年には前回を7.2ポイント下回っている。

《要支援認定者等：問 48・要介護認定者：問 10》

介護保険制度をよりよいものにするためには、どのような対策が必要ですか。

(複数回答可：3つまで)

【経年比較】



※「特にない」は、令和5年調査において追加した選択肢である。

前回、前々回と比較してみると、要支援認定者等において「特別養護老人ホームなどの入所施設の増設」、「介護ボランティアの育成・活動支援を通じた地域の支えあいの充実」に減少傾向がみられる。また、要介護認定者においては「特別養護老人ホームなどの入所施設の増設」、「介護保険サービスを担う人材の資質の向上」、「グループホームなどの地域に密着した小規模施設の増設」に減少傾向がみられる。要支援認定者等・要介護認定者ともに施設の充実を希望する方が減少していることから、在宅生活を希望する方が増加しているとうかがえる。

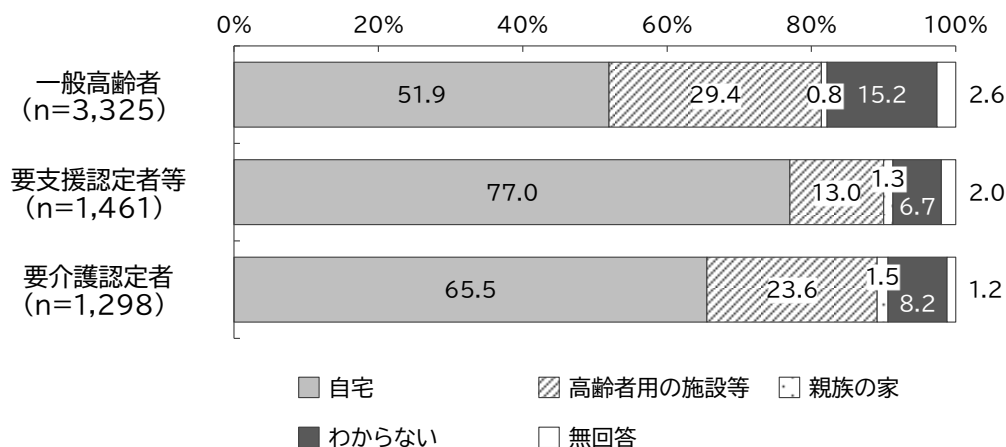
《一般高齢者：問 49・要支援認定者等：問 5・要介護認定者：問 5》

今後、どこで暮らしていきたいですか。(単数回答)

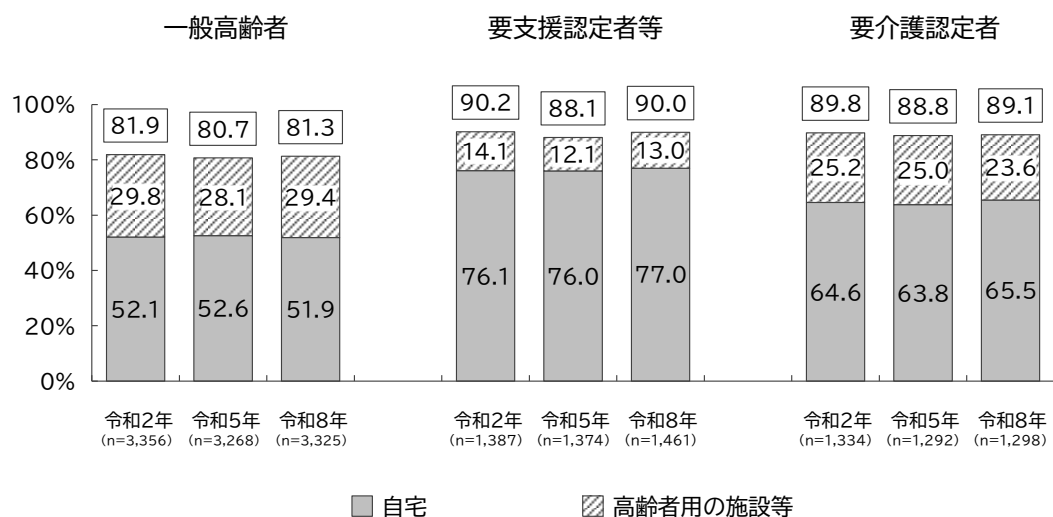
【単純集計】

今後暮らしたい場所

※一般高齢者は「介護が必要になったら」という前提での設問



【経年比較】



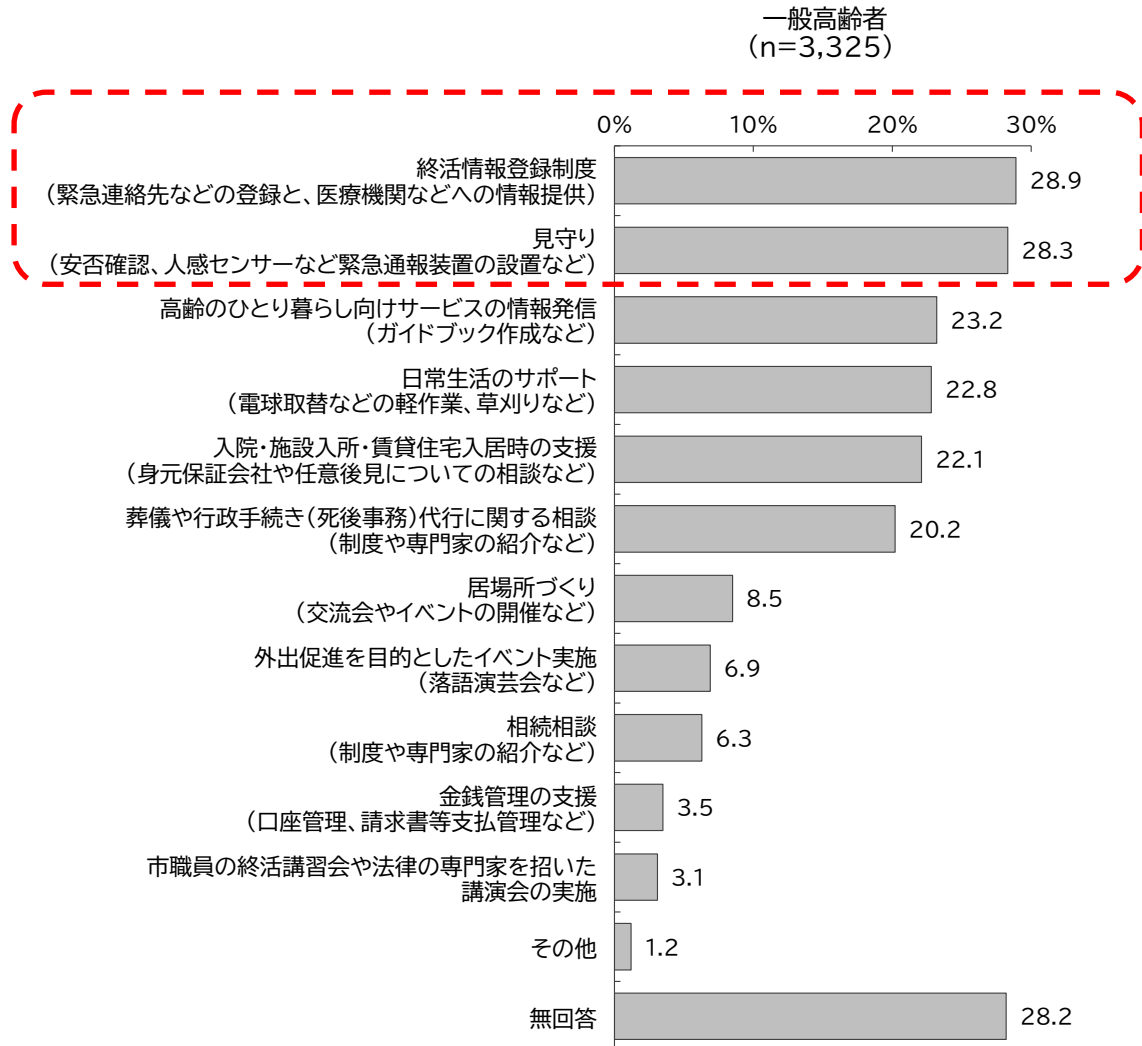
前回、前々回と比較してみると、一般高齢者・要支援認定者等・要介護認定者ともに大きな推移の差異はみられない。

ひとり暮らしの方への施策について

《一般高齢者：問 50》

大和市がひとり暮らしの方への施策を進めていくうえで、どのようなことに重点を置くべきと考えますか。(複数回答可：3つまで)

【単純集計】

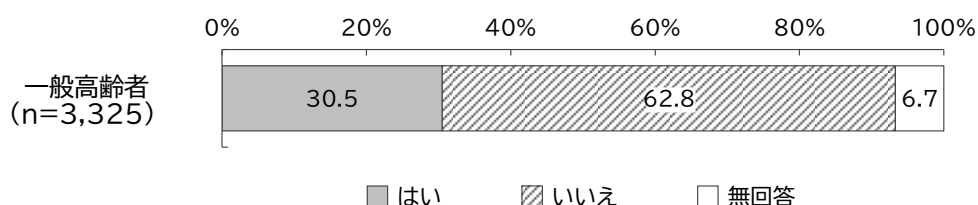


大和市がひとり暮らしの方への施策を進めていくうえで重点を置くべきと考えることは、一般高齢者において「終活情報登録制度（緊急連絡先などの登録と、医療機関などへの情報提供）」が28.9%と最も多く、次いで「見守り（安否確認、人感センサーなど緊急通報装置の設置など）」が28.3%、「高齢のひとり暮らし向けサービスの情報発信（ガイドブック作成など）」が23.2%などとなっている。

《一般高齢者：問 51》

あなたは市に終活相談窓口があることを知っていますか（希望に応じて司法書士の紹介も行っています）。（単数回答）

【単純集計】



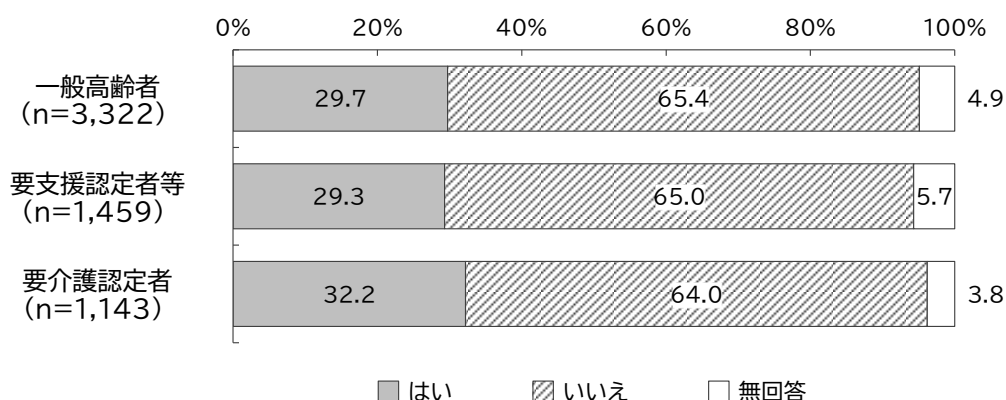
市に終活相談窓口があることの認知状況は、一般高齢者において「はい」が30.5%、「いいえ」が62.8%となっている。

認知症施策等について

《一般高齢者：問 53・要支援認定者等：問 51・要介護認定者：問 13》

認知症に関する相談窓口を知っていますか。（単数回答）

【単純集計】

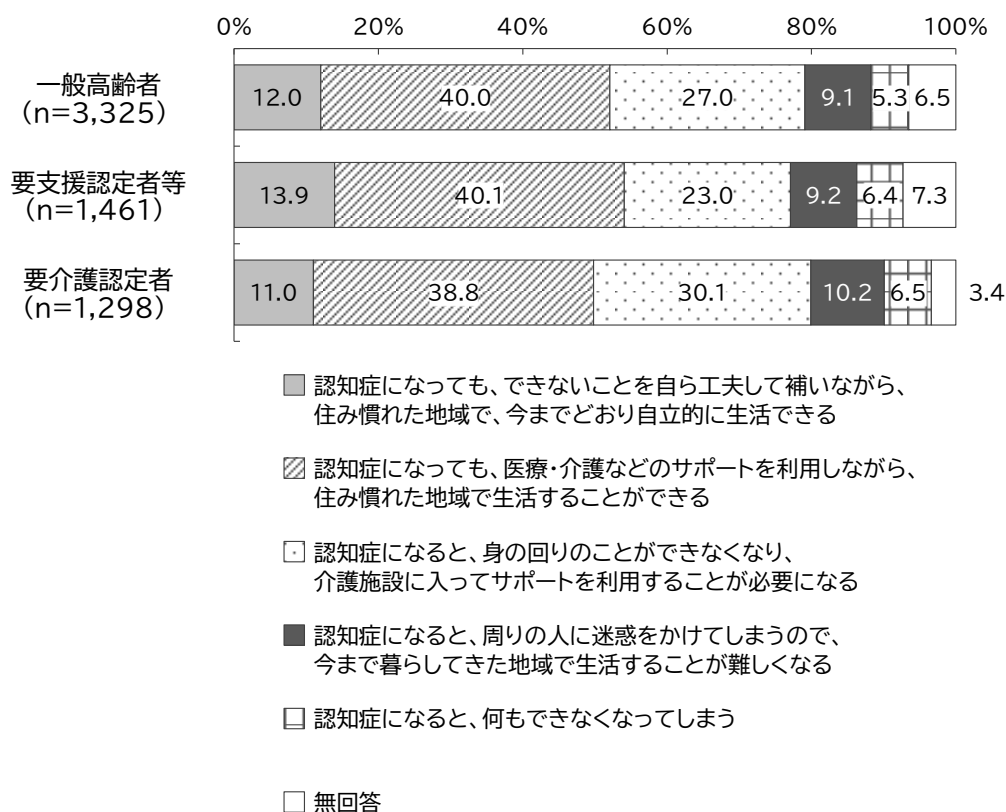


認知症に関する相談窓口の認知状況は、一般高齢者・要支援認定者等・要介護認定者のすべてにおいて「いいえ」が多くなっている。身近に認知症の人がいる割合が比較的少ない一般高齢者や要支援認定者等も要介護認定者と同等に相談窓口を認識している。

《一般高齢者：問 54・要支援認定者等：問 52・要介護認定者：問 14》

認知症に対してどのようなイメージを持っていますか。(単数回答)

【単純集計】

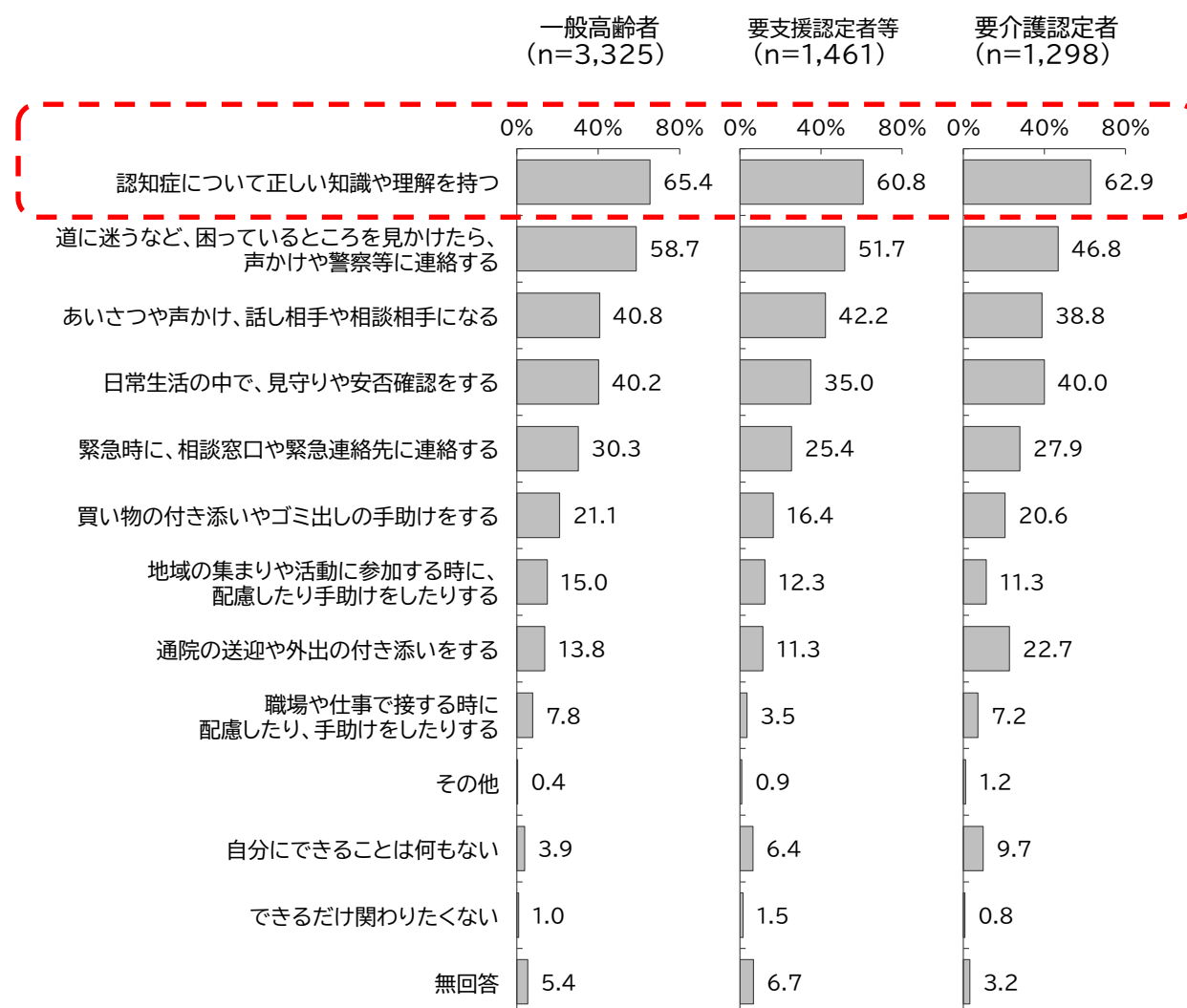


認知症に対するイメージは、一般高齢者・要支援認定者等・要介護認定者のすべてにおいて「認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、住み慣れた地域で生活することができる」が最も多く、「認知症になると、身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートを利用することが必要になる」、「認知症になっても、できないことを自ら工夫して補いながら、住み慣れた地域で、今までどおり自立的に生活できる」が続く。一方で、「認知症になると、身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートを利用することが必要になる」は、要介護認定者（30.1%）が一般高齢者（27.0%）・要支援認定者等（23.0%）より多くなっている。

《一般高齢者：問 57・要支援認定者等：問 55・要介護認定者：問 17》

認知症の人やその家族が暮らしやすい社会を築くため、あなたができると思うことは何ですか。（複数回答可）

【単純集計】

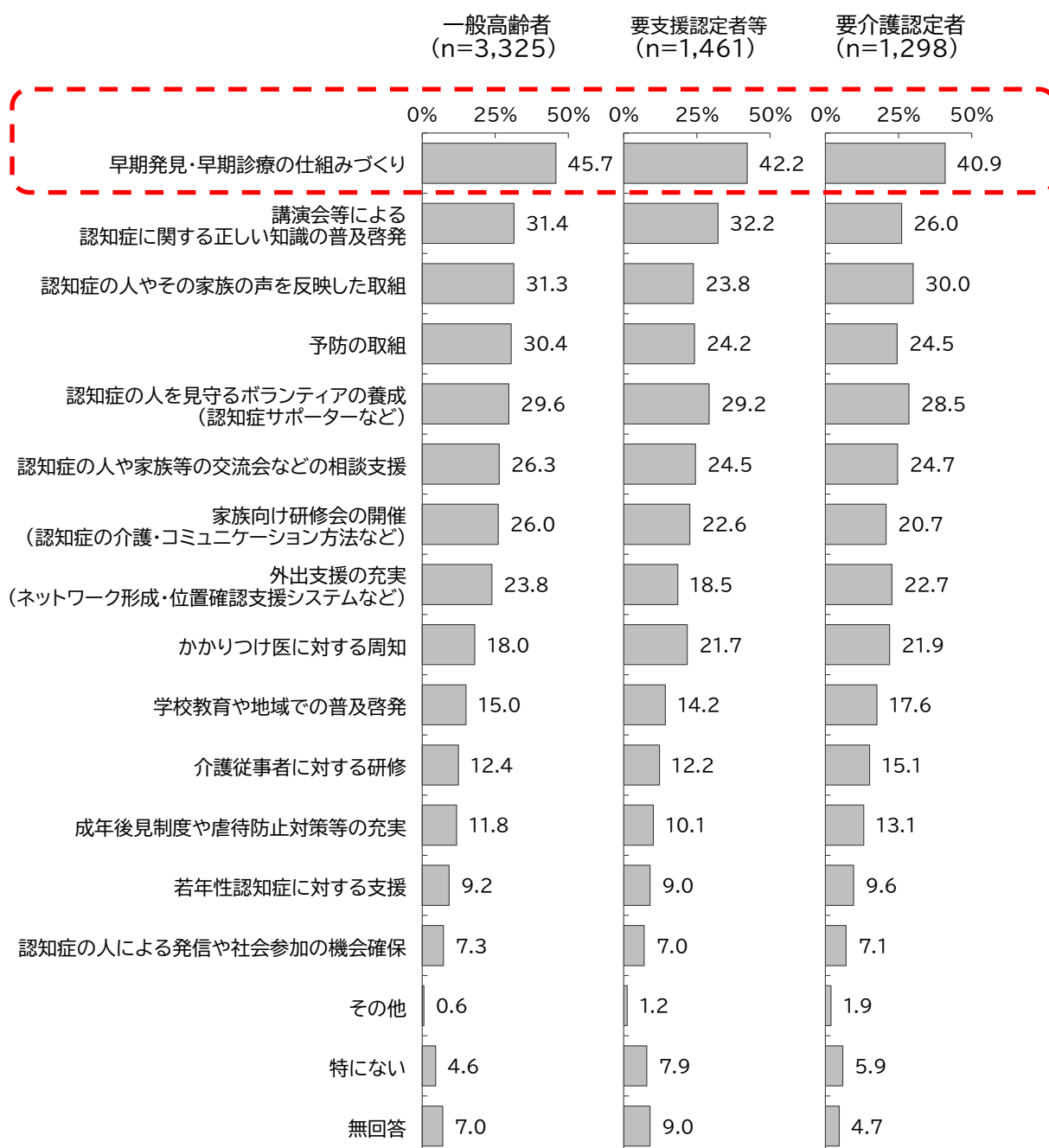


認知症の人やその家族が暮らしやすい社会を築くために自分にできると思うことは、一般高齢者・要支援認定者等・要介護認定者のすべてにおいて「認知症について正しい知識や理解を持つ」が最も多く、「道に迷うなど、困っているところを見かけたら、声かけや警察等に連絡する」が続く。また、介護を必要とするほど「道に迷うなど、困っているところを見かけたら、声かけや警察等に連絡する」が少なく、「自分にできることは何もない」が多くなっている。

《一般高齢者：問 58・要支援認定者等：問 56・要介護認定者：問 18》

大和市が認知症施策を進めていくうえで、どのようなことに重点を置くべきと考えますか。（複数回答可：5つまで）

【単純集計】



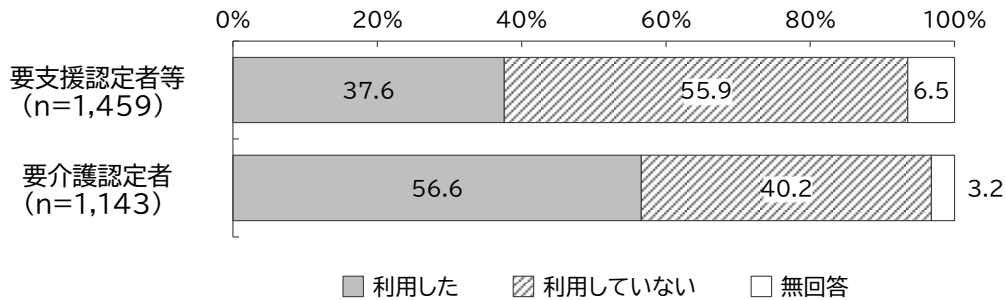
大和市が認知症施策を進めていくうえで、重点を置くべきと考えることは、一般高齢者・要支援認定者等・要介護認定者のすべてにおいて「早期発見・早期診療の仕組みづくり」が最も多くなっている。また、介護を必要とするほど「家族向け研修会の開催（認知症の介護・コミュニケーション方法など）」が少なくなっている。

介護保険サービス等について

《要支援認定者等：問 57・要介護認定者：問 19》

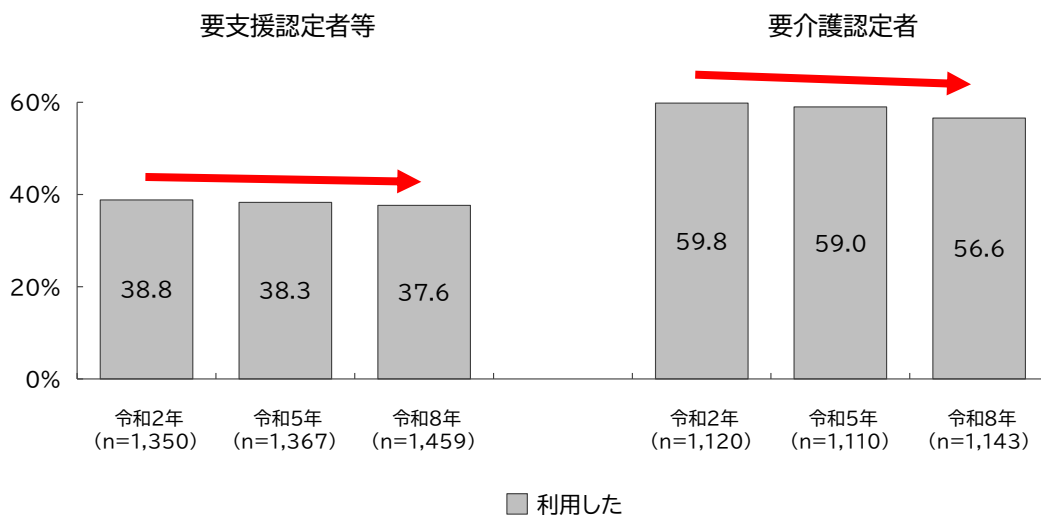
令和7年12月の1か月の間に、住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の介護保険サービスを利用しましたか。（介護予防・日常生活支援総合事業における介護予防訪問型サービス、訪問型サービスA、介護予防通所型サービスを含む）（単数回答）

【単純集計】



令和7年12月における住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の介護保険サービスの利用状況は、要支援認定者等において「利用していない」が多くなっているのに対し、要介護認定者においては「利用した」が多くなっている。また、「利用した」は、要介護認定者の方が要支援認定者等より19.0ポイント高くなっている。

【経年比較】



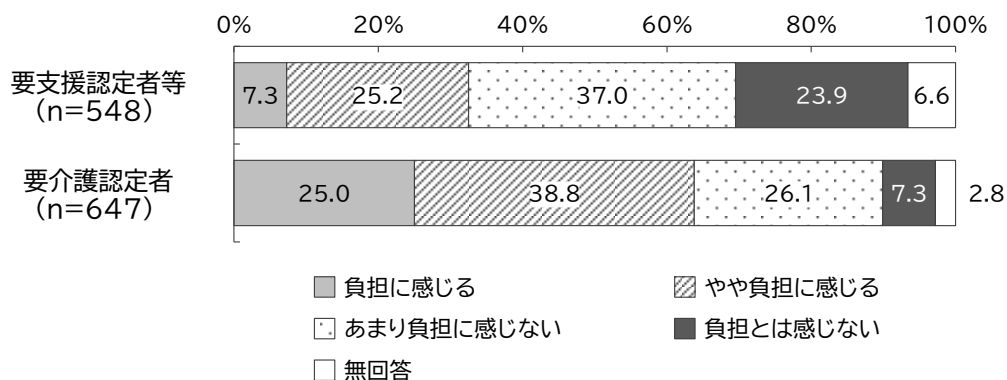
前回、前々回と比較してみると、要支援認定者等・要介護認定者ともに減少傾向で、要支援認定者等では1.2ポイント、要介護認定者では3.2ポイント減少している。

要支援認定者等：問 57・要介護認定者：問 19 で「利用した」と回答した方のみ

≪要支援認定者等：問 57－2・要介護認定者：問 19－2≫

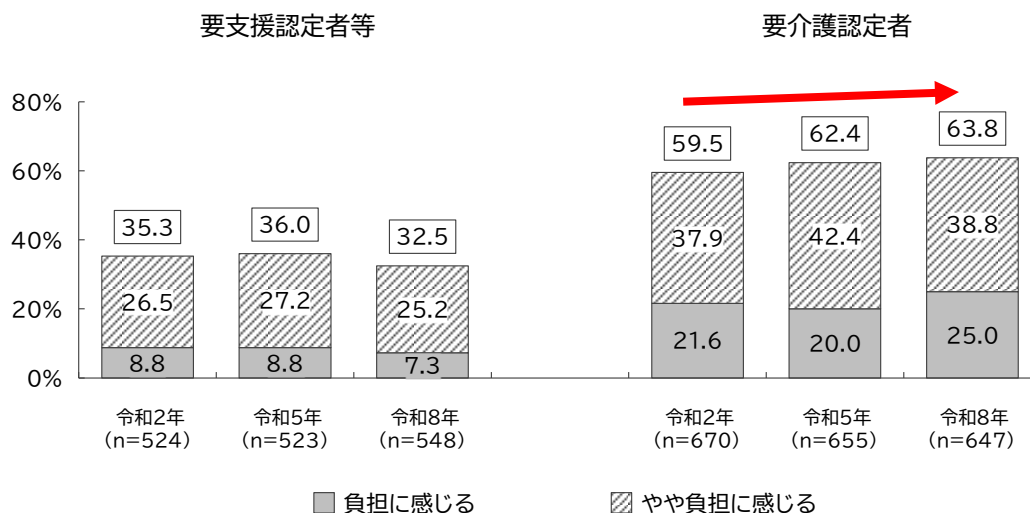
利用者負担の支払額について、どのように感じていますか。(単数回答)

【単純集計】



利用者負担の支払額は、要支援認定者等において「あまり負担に感じない」が 37.0%と最も多くなっているのに対し、要介護認定者においては「やや負担を感じる」が 38.8%と最も多くなっている。また、『負担（負担を感じる＋やや負担を感じる）』は、要支援認定者等で 32.5%、要介護認定者で 63.8%と、要介護認定者の方が要支援認定者等より 31.3 ポイント高くなっている。

【経年比較】



前回、前々回と比較してみると、『負担（負担を感じる＋やや負担を感じる）』は要支援認定者等・要介護認定者ともに大きな差異はみられないものの、要介護認定者においてはわずかに増加傾向がみられる。

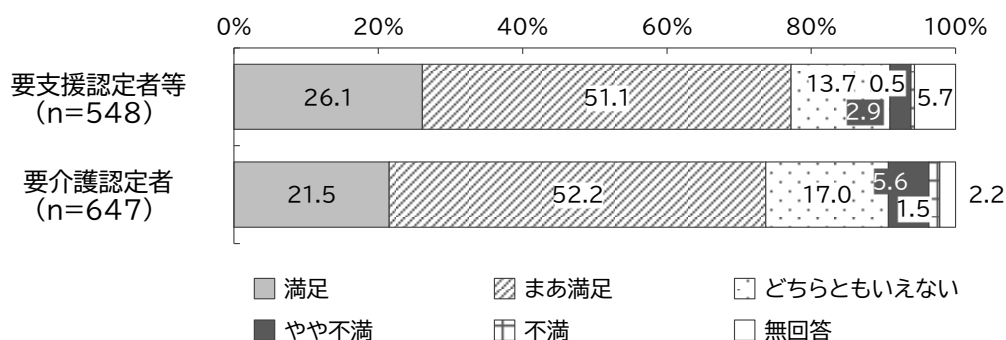
要支援認定者等：問 57・要介護認定者：問 19 で「利用した」と回答した方のみ

《要支援認定者等：問 57－3・要介護認定者：問 19－3》

現在利用している介護保険サービス全体について、どの程度満足していますか。

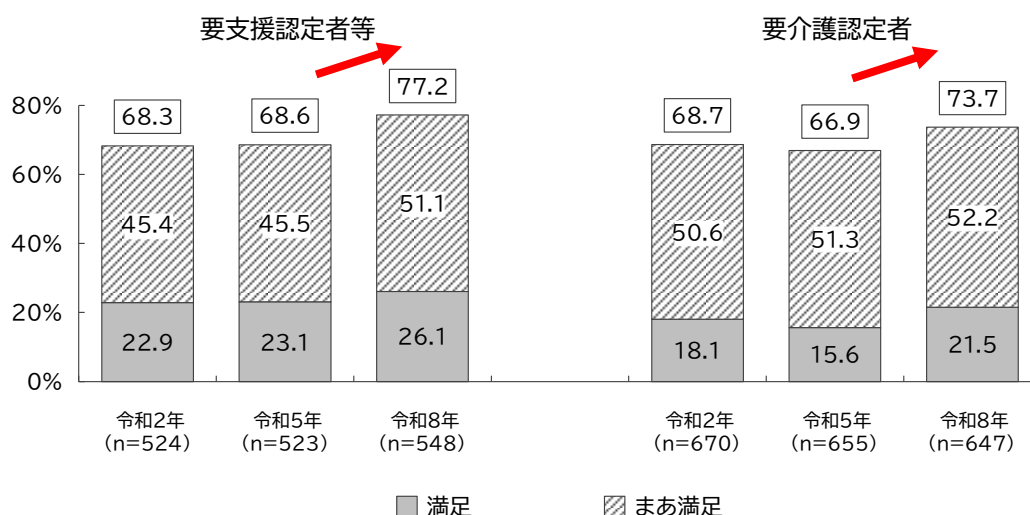
(単数回答)

【単純集計】



現在利用している介護保険サービス全体の満足状況は、要支援認定者等・要介護認定者ともに類似した傾向がみられ、「まあ満足」が最も多く、「満足」、「どちらともいえない」が続く。また、『満足（満足＋まあ満足）』は、要支援認定者等で 77.2%、要介護認定者で 73.7%と、大きな差異はみられない。

【経年比較】



前回、前々回と比較してみると、『満足（満足＋まあ満足）』は、要支援認定者等・要介護認定者ともに令和8年に増加している。

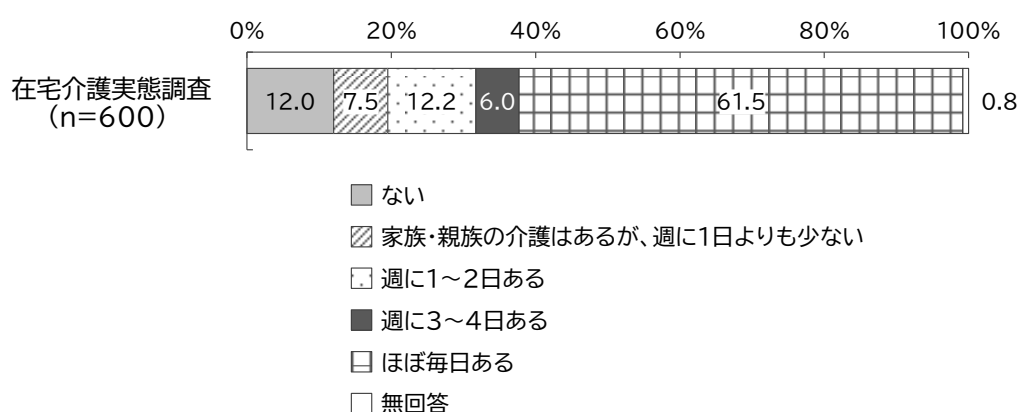
Ⅲ 調査の結果（在宅介護実態調査）

【A票】認定調査員が、概況調査等と並行して記載する項目

≪ A票 問2 ≫

ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか（同居していない子どもや親族等からの介護を含む）。（単数回答）

【単純集計】



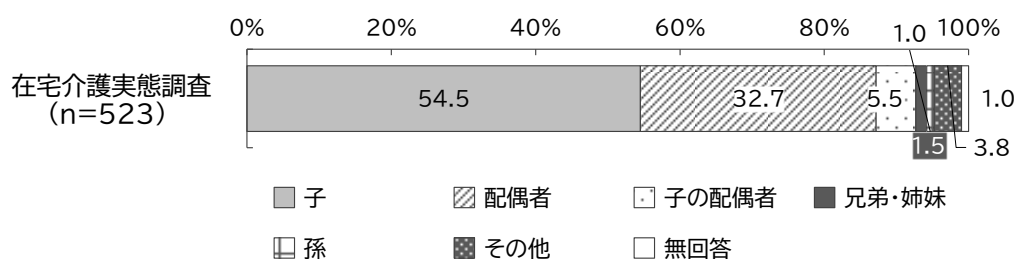
ご家族やご親族の方からの介護の週あたりの頻度は、「ほぼ毎日ある」が61.5%と最も多く、次いで「週に1～2日ある」が12.2%、「ない」が12.0%などとなっている。

A票 問2で『ご家族やご親族からの介護がある』と回答した方のみ

≪ A票 問3 ≫

主な介護者の方は、どなたですか。（単数回答）

【単純集計】



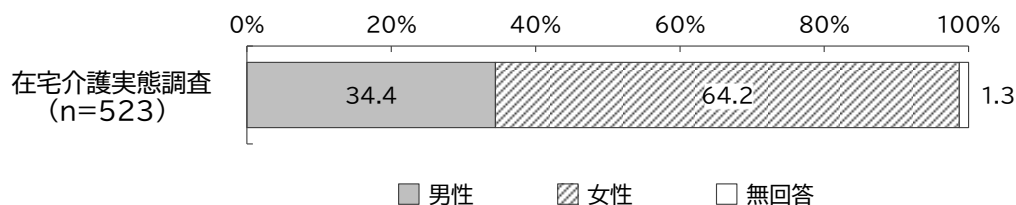
主な介護者の方は、「子」が54.5%と最も多く、次いで「配偶者」が32.7%、「子の配偶者」が5.5%などとなっている。

A票 問2で『ご家族やご親族からの介護がある』と回答した方のみ

＜A票 問4＞

主な介護者の方の性別について、ご回答ください。(単数回答)

【単純集計】



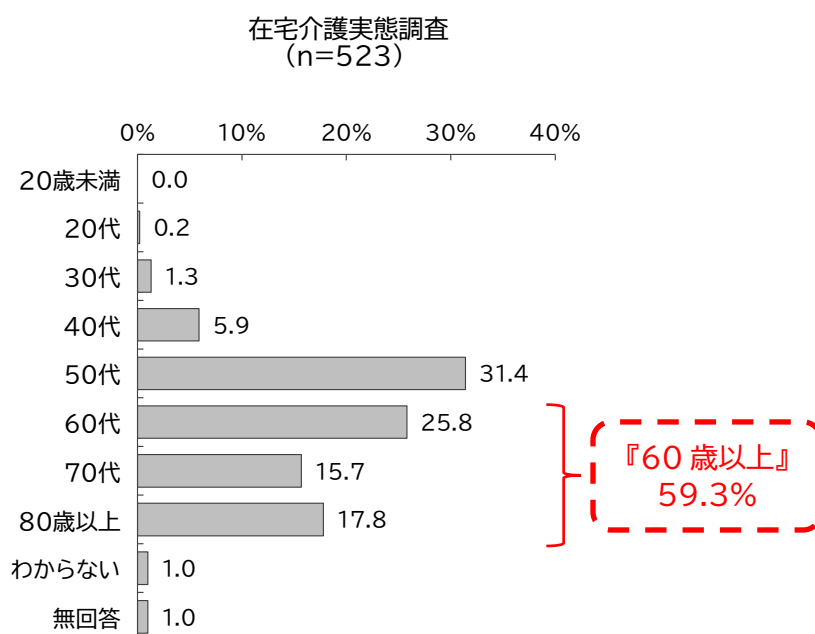
主な介護者の方の性別は、「男性」が34.4%、「女性」が64.2%となっている。

A票 問2で『ご家族やご親族からの介護がある』と回答した方のみ

＜A票 問5＞

主な介護者の方の年齢について、ご回答ください。(単数回答)

【単純集計】



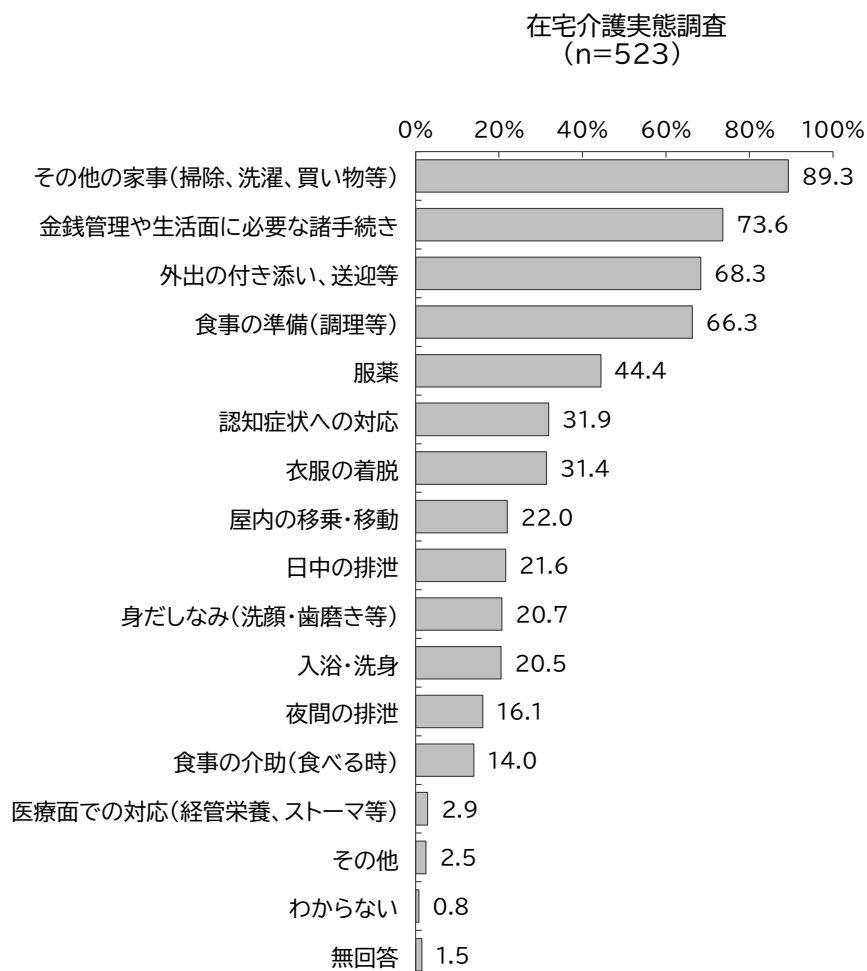
主な介護者の方の年齢は、「50代」が31.4%と最も多く、次いで「60代」が25.8%、「80歳以上」が17.8%などとなっている。また、『60歳以上』は59.3%となっている。

A票 問2で『ご家族やご親族からの介護がある』と回答した方のみ

≪ A票 問6 ≫

現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください。(複数回答可)

【単純集計】



主な介護者の方が行っている介護等は、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が 89.3%と最も多く、次いで「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が 73.6%、「外出の付き添い、送迎等」が 68.3%などとなっている。

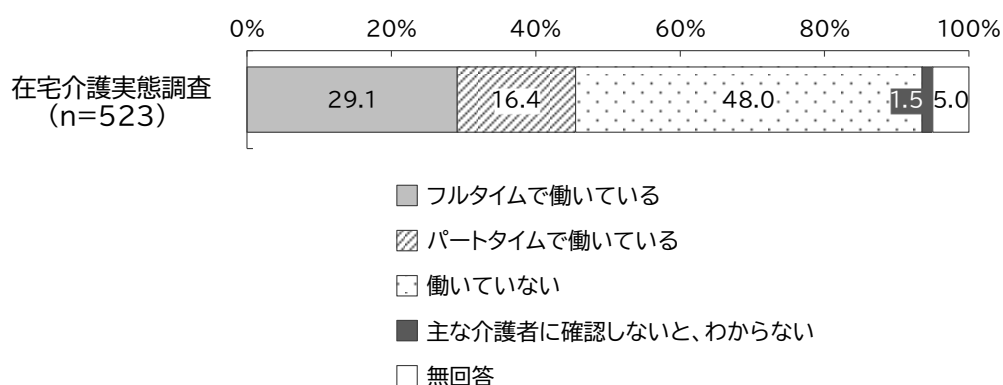
【B票】主な介護者様、もしくはご本人様にご回答・ご記入頂く項目

A票 問2で『ご家族やご親族からの介護がある』と回答した方のみ

《B票 問1》

主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください。(単数回答)

【単純集計】



※「パートタイム」とは、「1週間の所定労働時間が、同一の事業所に雇用される通常の労働者に比べて短い方」が該当する。いわゆる「アルバイト」、「嘱託」、「契約社員」等の方を含む。自営業・フリーランス等の場合も、就労時間・日数等から「フルタイム」・「パートタイム」のいずれかを選択する。

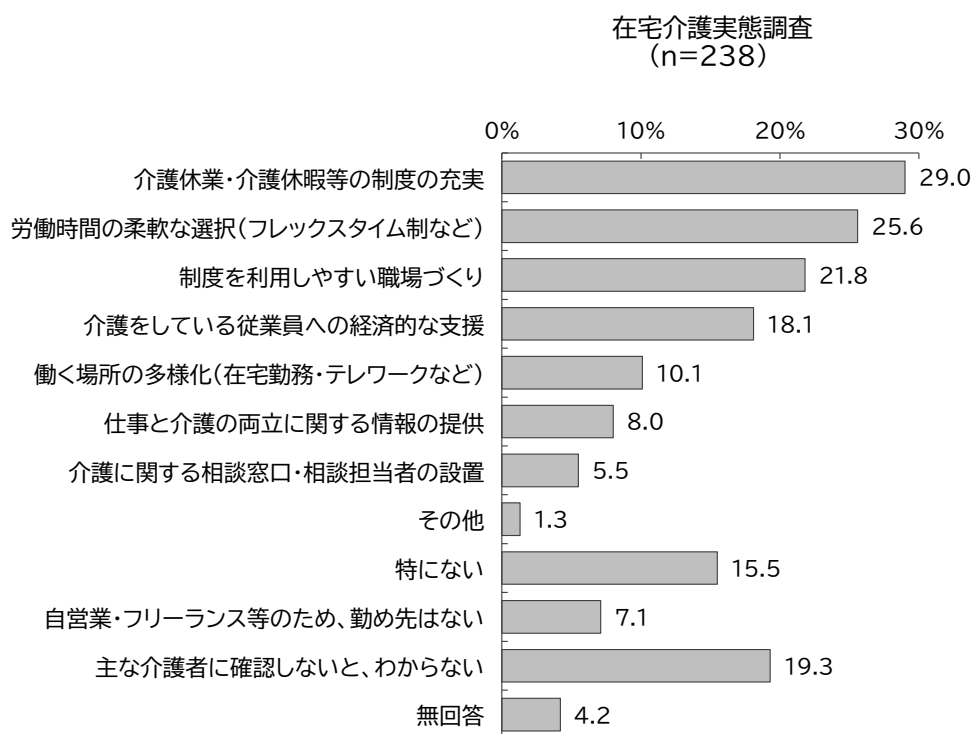
主な介護者の方の現在の勤務形態は、「働いていない」が48.0%と最も多く、次いで「フルタイムで働いている」が29.1%、「パートタイムで働いている」が16.4%などとなっている。

B票 問1で「フルタイムで働いている」、「パートタイムで働いている」と回答した方のみ

≪ B票 問3 ≫

主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか。(複数回答可・3つまで)

【単純集計】



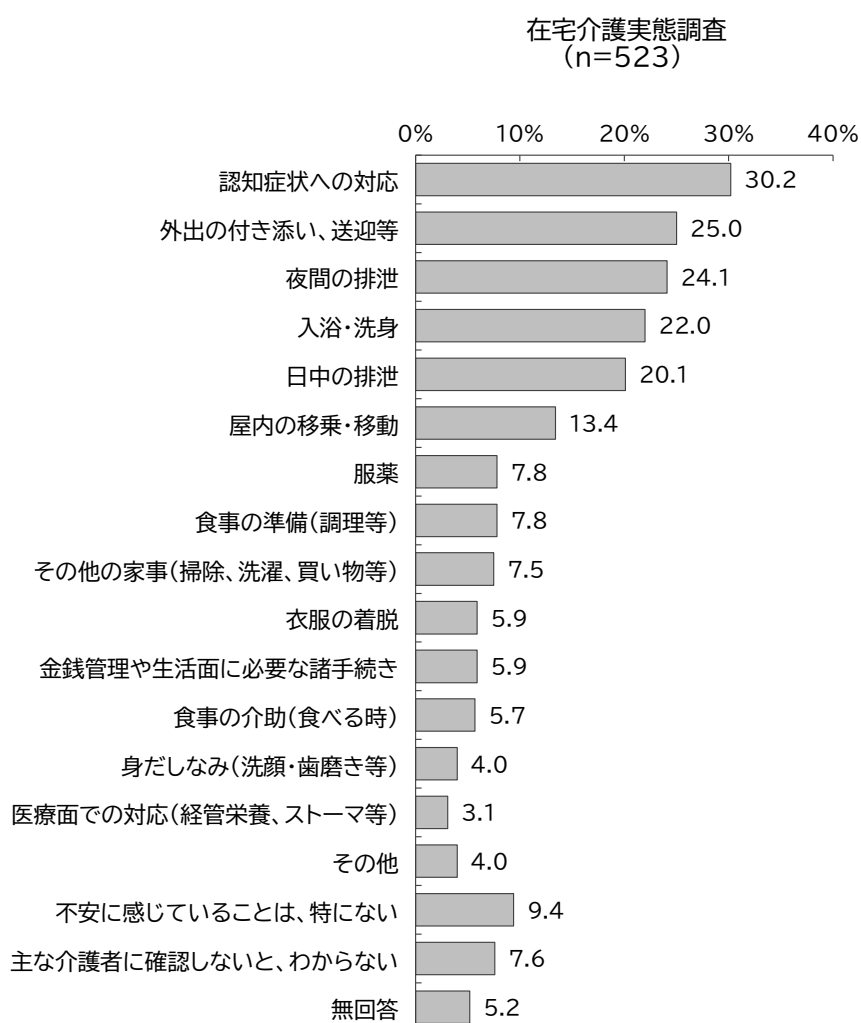
主な介護者の方が仕事と介護の両立に効果があると思う勤め先からの支援は、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が29.0%と最も多く、次いで「労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)」が25.6%、「制度を利用しやすい職場づくり」が21.8%などとなっている。

A票 問2で『ご家族やご親族からの介護がある』と回答した方のみ

≪B票 問5≫

現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください（現状で行っているか否かは問いません）。（複数回答可・3つまで）

【単純集計】



現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等は、「認知症状への対応」が 30.2%と最も多く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が 25.0%、「夜間の排泄」が 24.1%などとなっている。

IV 調査の結果（介護保険サービス供給量調査）

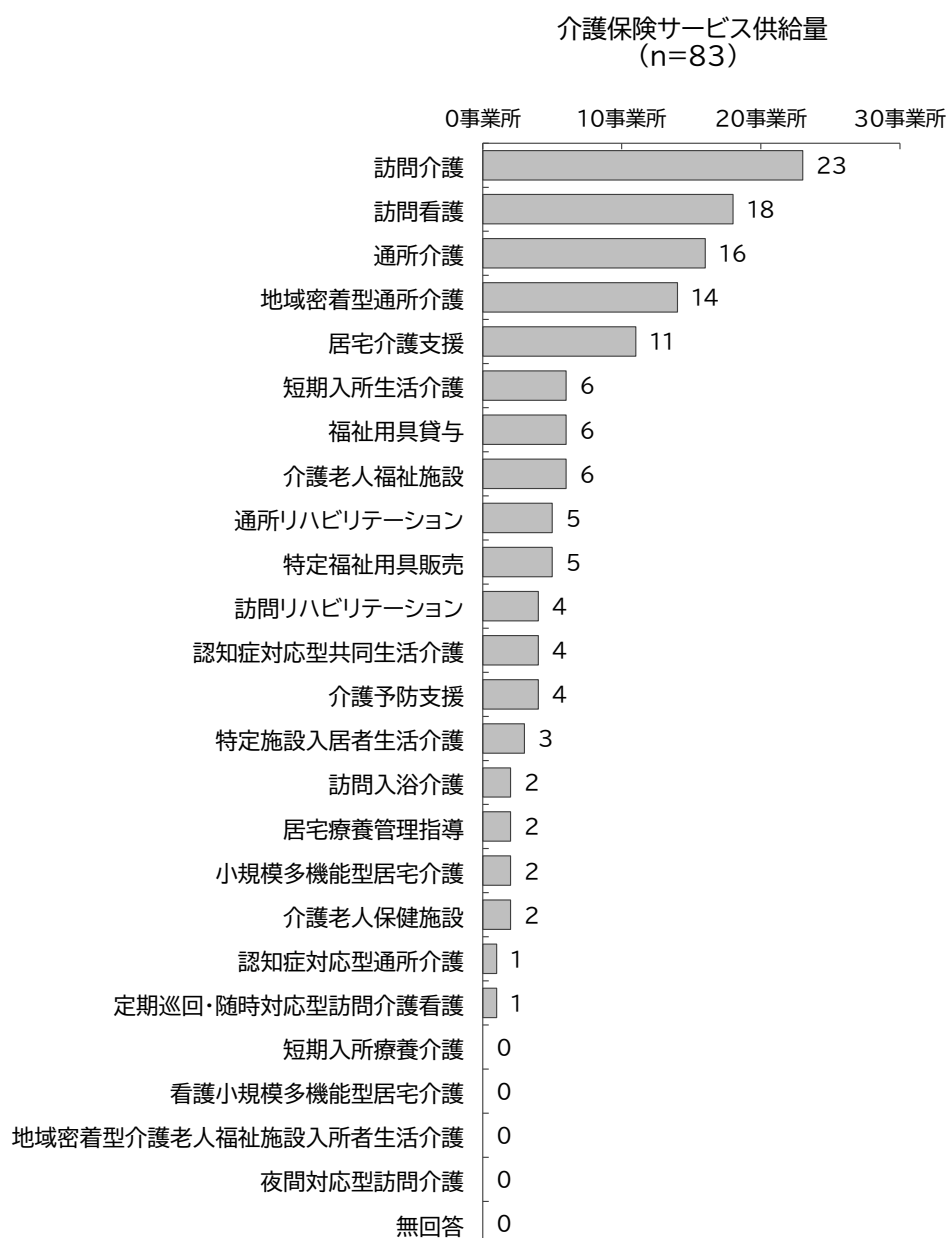
2 法人の事業展開について

《介護保険サービス供給量：問1》

提供している介護保険サービスの番号に○をつけてください。

（提供している介護保険サービス：複数回答可）

【単純集計：提供している介護保険サービス】



今回回答いただいた 83 法人において提供している介護保険サービスの種類は、「訪問介護」が 23 事業所と最も多く、次いで「訪問看護」が 18 事業所、「通所介護」が 16 事業所などとなっている。

《介護保険サービス供給量：問2》

介護保険サービスについておたずねします。サービスごとの令和7年度の平均稼働率と今後の事業予定を教えてください。

(実施している介護保険サービス：複数回答可、その他は単数回答)

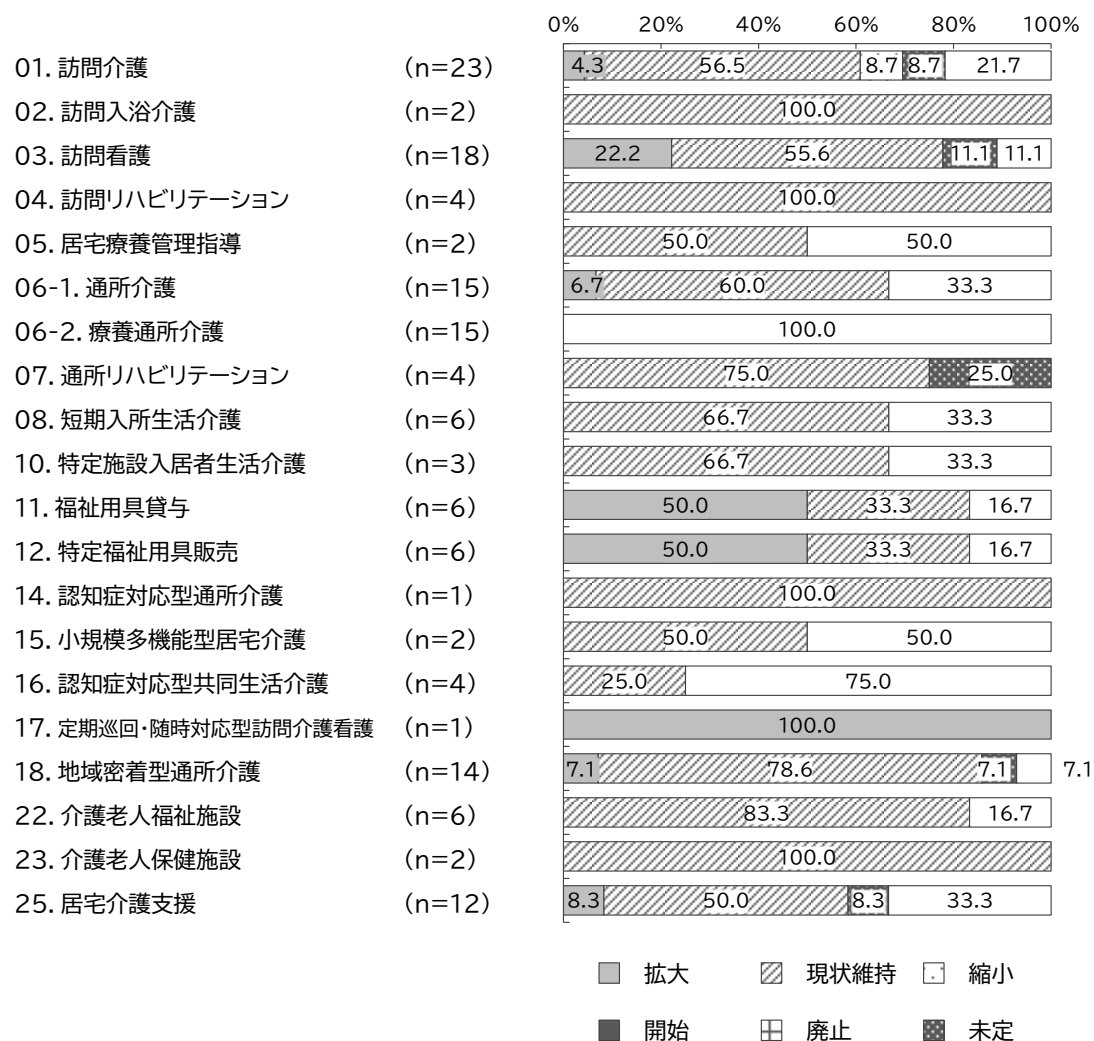
【単純集計：平均稼働率】



*選択肢が多いため、「0.0%」の表記は割愛

平均稼働率は、3事業所以上の回答があったサービスのうち、《04. 訪問リハビリテーション》・《16. 認知症対応型共同生活介護》・《22. 介護老人福祉施設》で『70%以上』が100.0%と多くなっている。

【単純集計：今後の事業予定】



*選択肢が多いため、「0.0%」の表記は割愛

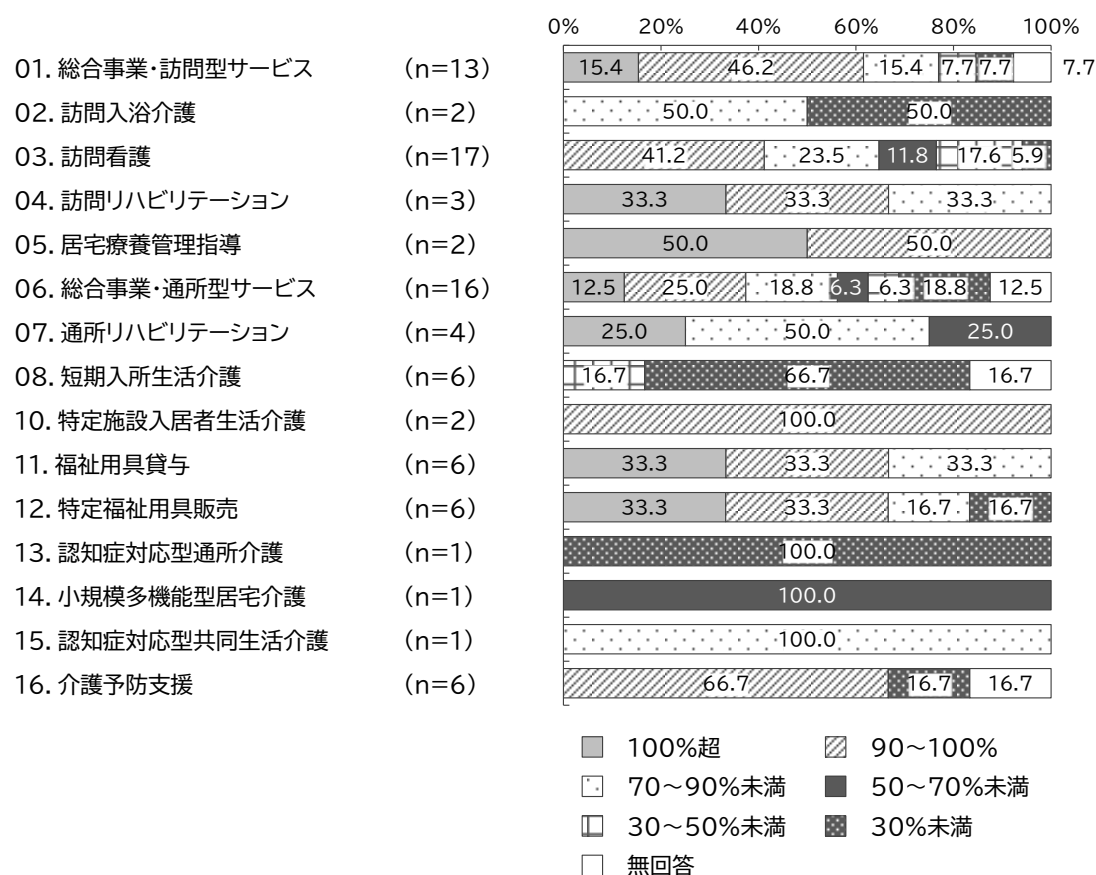
今後の事業予定は、3事業所以上の回答があったサービスのうち、ほとんどのサービスで「現状維持」が半数を超えて最も多く、拡大や縮小等を予定していない。また、《11. 福祉用具貸与》・《12. 特定福祉用具販売》では「拡大」が半数で最も多くなっている。

《介護保険サービス供給量：問3》

介護予防サービスについておたずねします。サービスごとの令和7年度の平均稼働率と今後の事業予定を教えてください。

(実施している介護予防サービス：複数回答可、その他は単数回答)

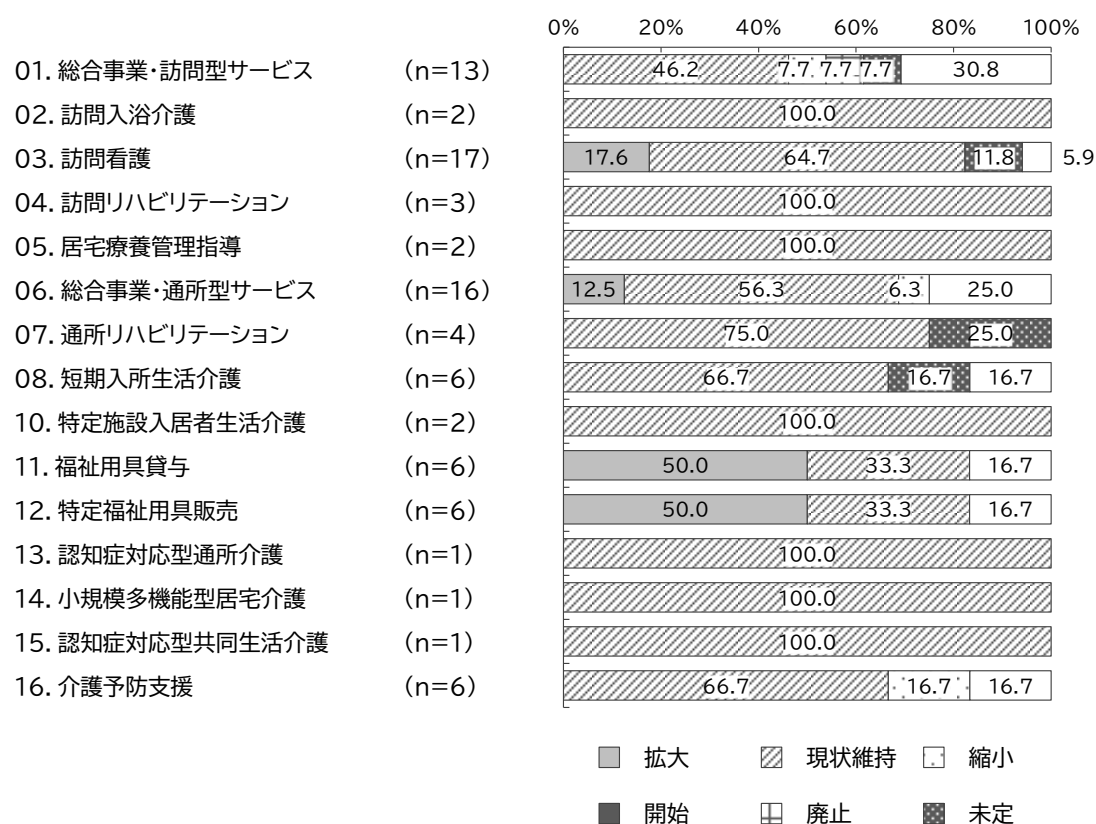
【単純集計：平均稼働率】



*選択肢が多いため、「0.0%」の表記は割愛

平均稼働率は、3事業所以上の回答があったサービスのうち、《04. 訪問リハビリテーション》・《11. 福祉用具貸与》で『70%以上』が99.9%と多くなっている。

【単純集計：今後の事業予定】



*選択肢が多いため、「0.0%」の表記は割愛

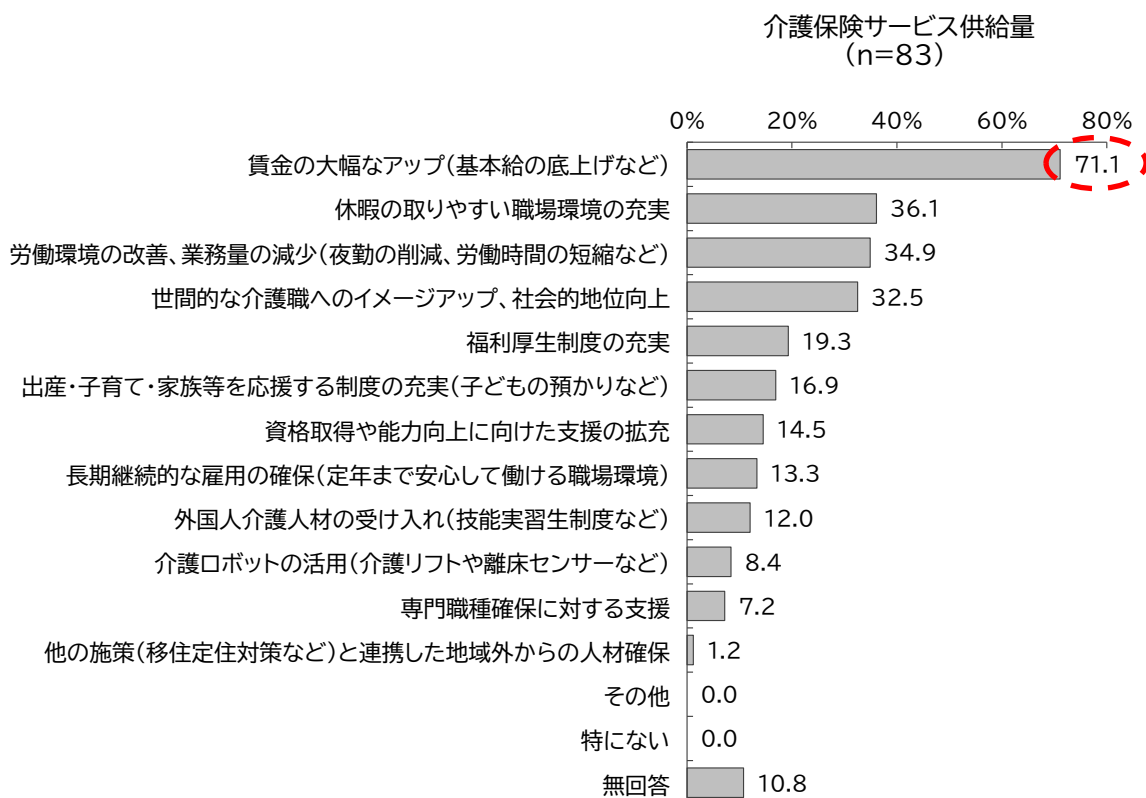
今後の事業予定は、3事業所以上の回答があったサービスのうち、ほとんどのサービスで「現状維持」が4割を超えて最も多く、拡大や縮小等を予定していない。また、《11. 福祉用具貸与》・《12. 特定福祉用具販売》では「拡大」が半数で最も多くなっている。

《介護保険サービス供給量：問8》

介護人材不足の打開策として、有効であるとお考えの取組を教えてください。

(複数回答可：3つまで)

【単純集計】



介護人材不足の打開策として有効だと考える取組は、「賃金の大幅なアップ（基本給の底上げなど）」が71.1%と最も多く、次いで「休暇の取りやすい職場環境の充実」が36.1%、「労働環境の改善、業務量の減少（夜勤の削減、労働時間の短縮など）」が34.9%などとなっている。

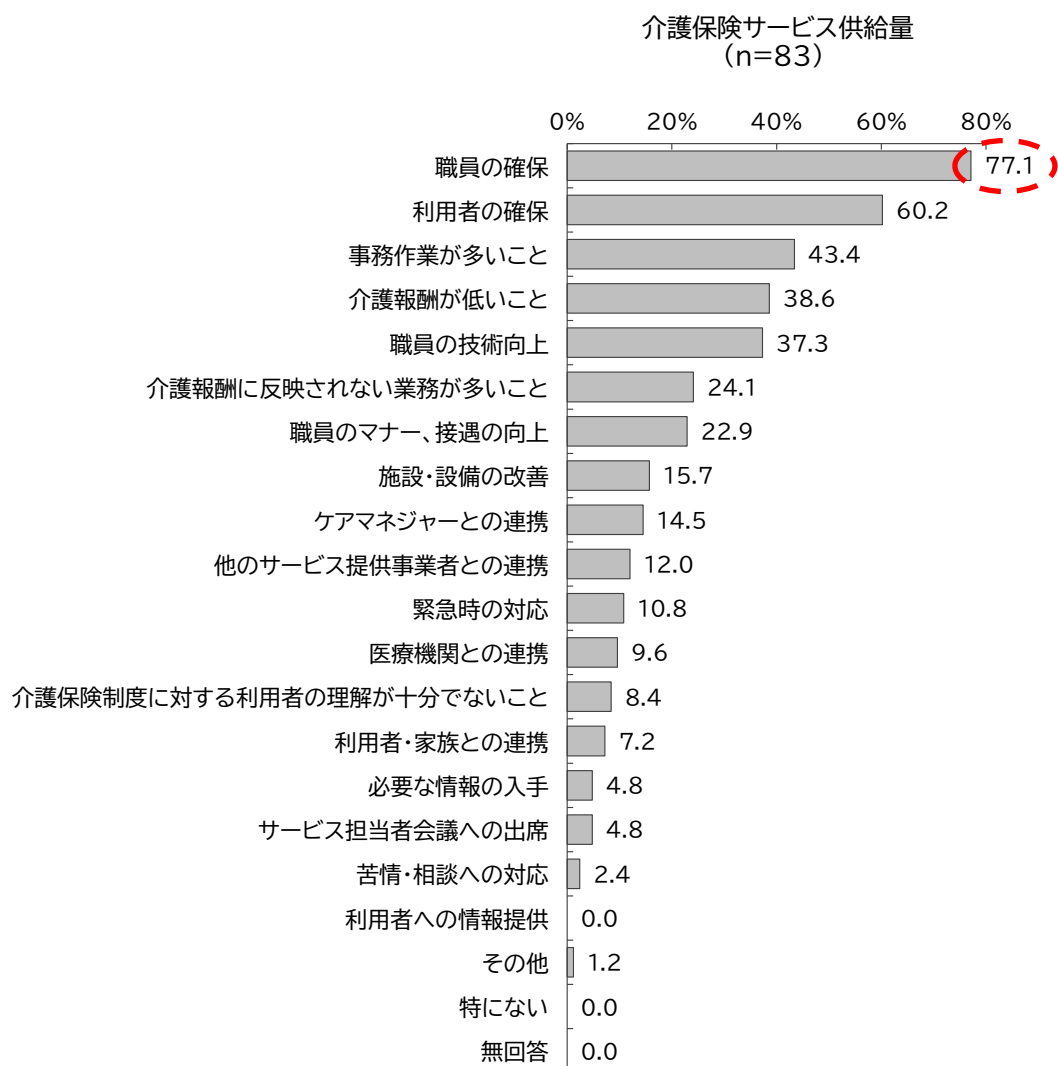
3 事業所の経営状況について

《介護保険サービス供給量：問 10》

法人が介護保険事業を運営していくうえでの課題を教えてください。

(複数回答可：5つまで)

【単純集計】



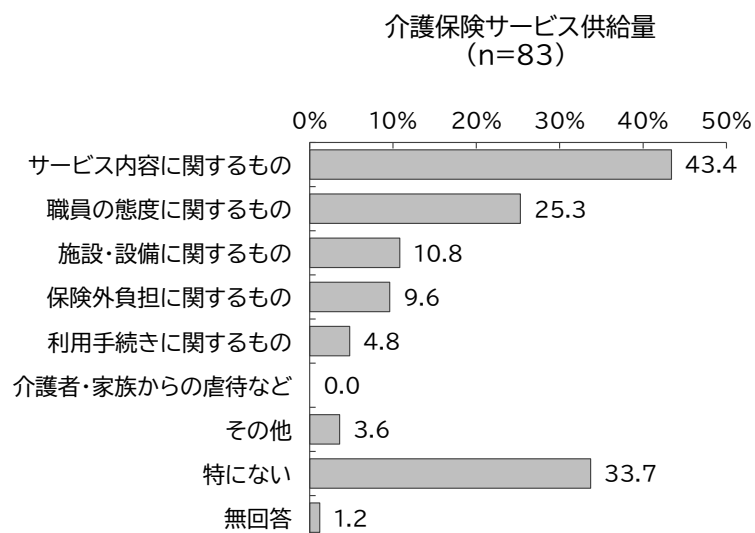
介護保険事業を運営していくうえでの課題は、「職員の確保」が77.1%と最も多く、次いで「利用者の確保」が60.2%、「事務作業が多いこと」が43.4%などとなっている。

《介護保険サービス供給量：問 15》

利用者・契約者やその家族からの苦情や相談はどのようなものが多いですか。

(複数回答可：3つまで)

【単純集計】



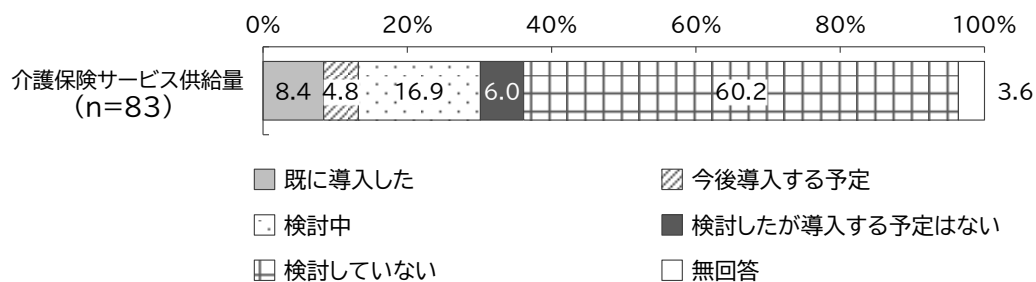
利用者・契約者やその家族からの苦情や相談で多いものは、「サービス内容に関するもの」が43.4%と最も多く、次いで「特にない」が33.7%、「職員の態度に関するもの」が25.3%などとなっている。

4 介護ロボット・ICTの導入について

《介護保険サービス供給量：問 17》

介護ロボットの導入を検討したことがありますか。(単数回答)

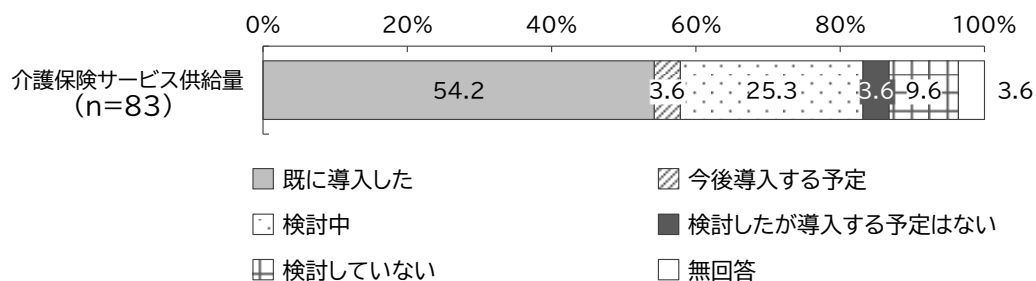
【単純集計】



《介護保険サービス供給量：問 18》

ICTの導入を検討したことがありますか。(単数回答)

【単純集計】



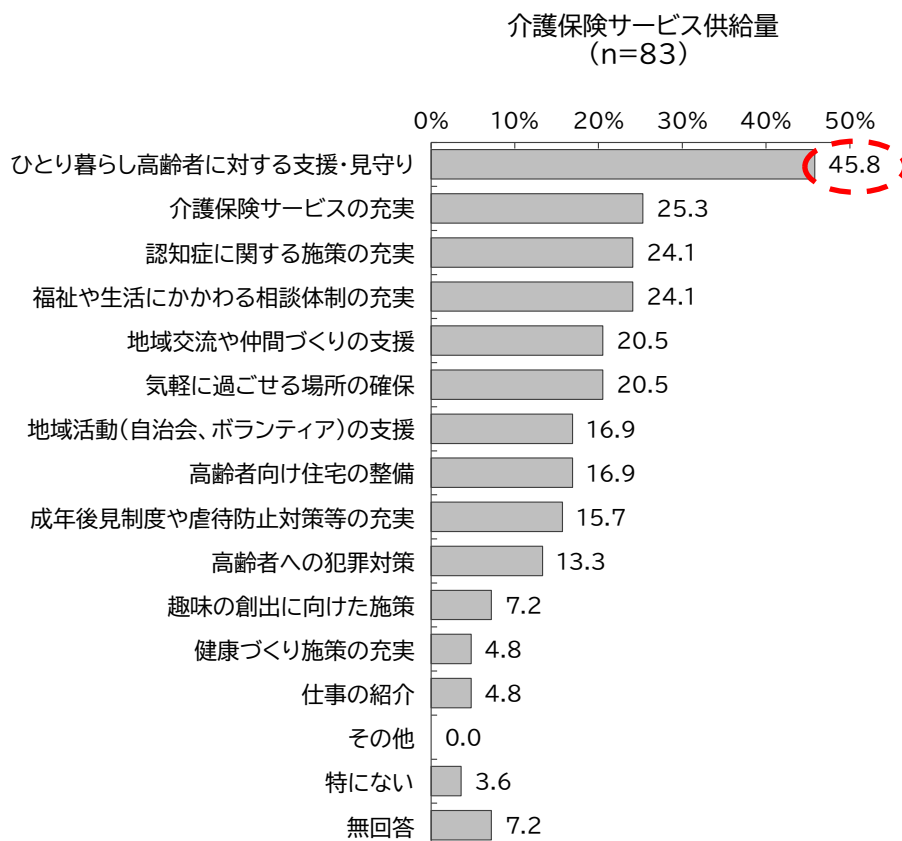
5 高齢者施策等について

《介護保険サービス供給量：問 19》

大和市で充実すべきであるとお考えの高齢者施策等を教えてください。

(複数回答可：3つまで)

【単純集計】



大和市で充実すべきであるとお考える高齢者施策等は、「ひとり暮らし高齢者に対する支援・見守り」が45.8%と最も多く、次いで「介護保険サービスの充実」が25.3%、「認知症に関する施策の充実」、「福祉や生活にかかわる相談体制の充実」がそれぞれ24.1%などとなっている。

V 調査の結果（居宅介護支援事業所調査）

ケアプラン作成について

≪居宅介護支援事業所：問5・問6≫

担当している利用者のうち、施設等への入所を希望している方は何人いますか。
(数値回答)

施設等への入所を希望している人のうち、ケアマネジャーの視点からも施設入所が望ましいと思われる方は何人いますか。(数値回答)

【単純集計】

居宅介護支援事業所 (n=45)	担当利用者の意向		ケアマネジャーの視点	
	人数	割合	人数	割合
担当利用者数	4,654 人	—	4,654 人	—
入所希望者数	206 人	4.4%	166 人	3.6%
希望する施設の種別				
介護老人福祉施設	95 人	2.0%	89 人	1.9%
介護老人保健施設	10 人	0.2%	8 人	0.2%
介護医療院	0 人	0.0%	0 人	0.0%
認知症対応型共同生活介護 (グループホーム)	23 人	0.5%	20 人	0.4%
特定施設 (介護付有料老人ホーム)	33 人	0.7%	25 人	0.5%
高齢者対応の賃貸住宅 (サービス付き高齢者向け住宅含む)	45 人	1.0%	24 人	0.5%

担当利用者のうち、施設等への入所を希望している利用者数は 206 人（4.4%）となっているのに対し、ケアマネジャーの視点からも施設入所が望ましいと思われる利用者数は 166 人（3.6%）とやや少なく、担当利用者とケアマネジャーとで若干の乖離がみられる。

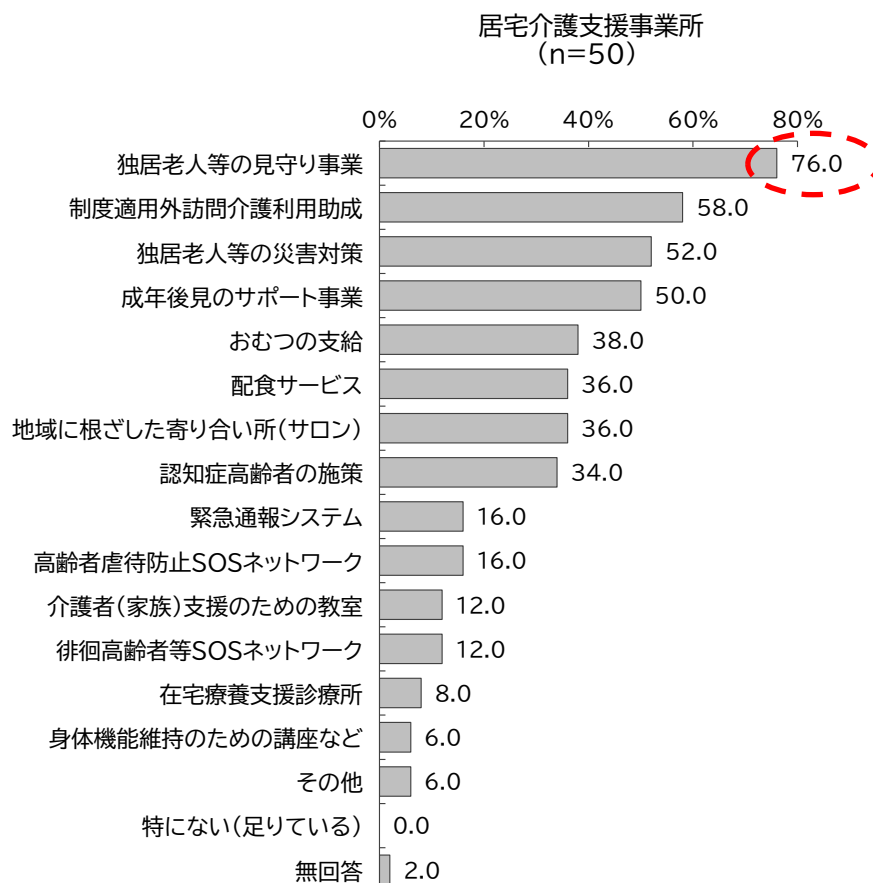
希望施設別にみると、「介護老人福祉施設」への入所希望が多く、95 人（2.0%）となっている。

高齢者施策等について

《居宅介護支援事業所：問9》

今後充実した方が良い または 新規に望まれる介護保険制度外のサービスはありますか。(複数回答可)

【単純集計】

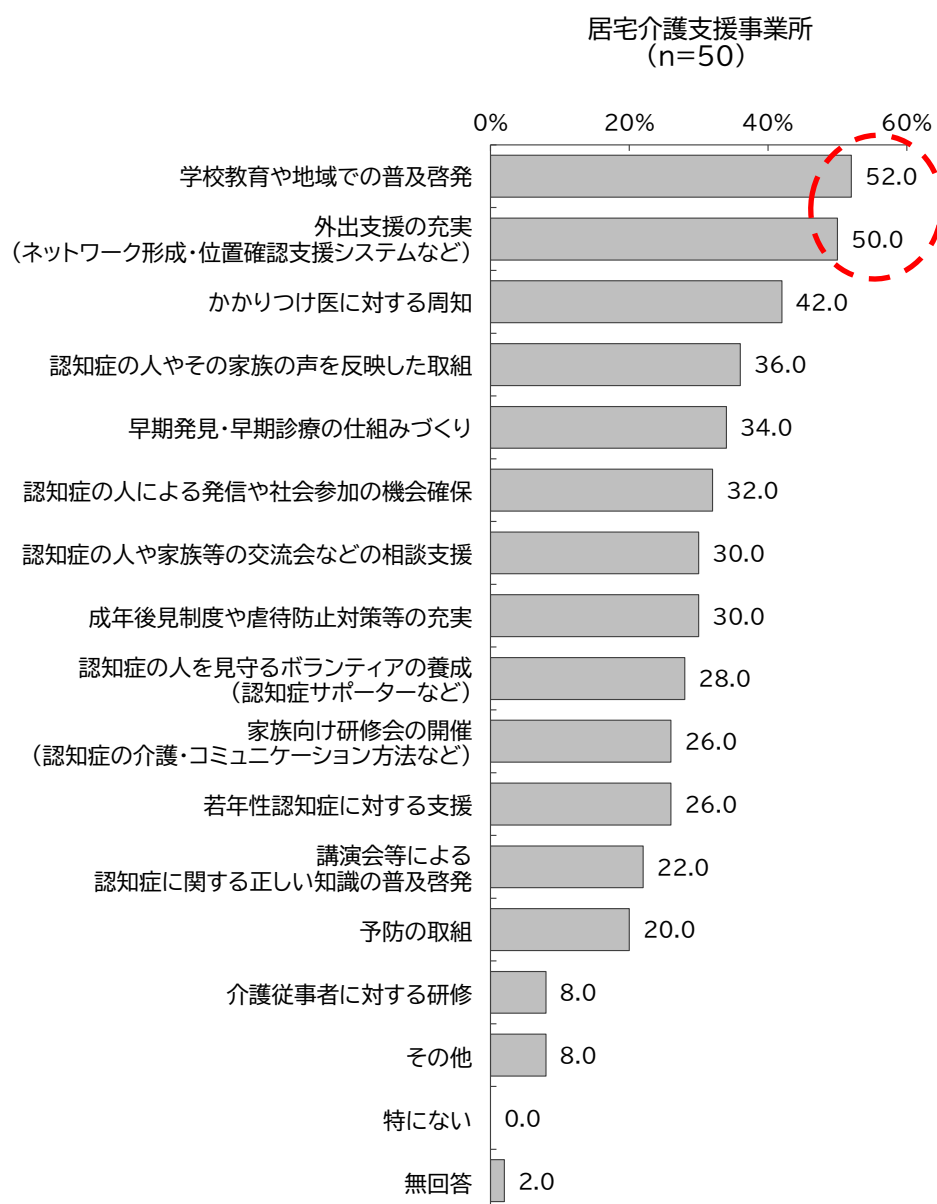


今後充実した方が良い、もしくは、新規に望まれる介護保険制度外のサービスは、「独居老人等の見守り事業」が76.0%と最も多く、次いで「制度適用外訪問介護利用助成」が58.0%、「独居老人等の災害対策」が52.0%などとなっている。

《居宅介護支援事業所：問 10》

大和市が認知症施策を進めていくうえで、どのようなことに重点を置くべきと考えますか。（複数回答可：5つまで）

【単純集計】



認知症施策を進めていくうえで、重点を置くべきと考えることは、「学校教育や地域での普及啓発」が 52.0%と最も多く、次いで「外出支援の充実（ネットワーク形成・位置確認支援システムなど）」が 50.0%、「かかりつけ医に対する周知」が 42.0%などとなっている。

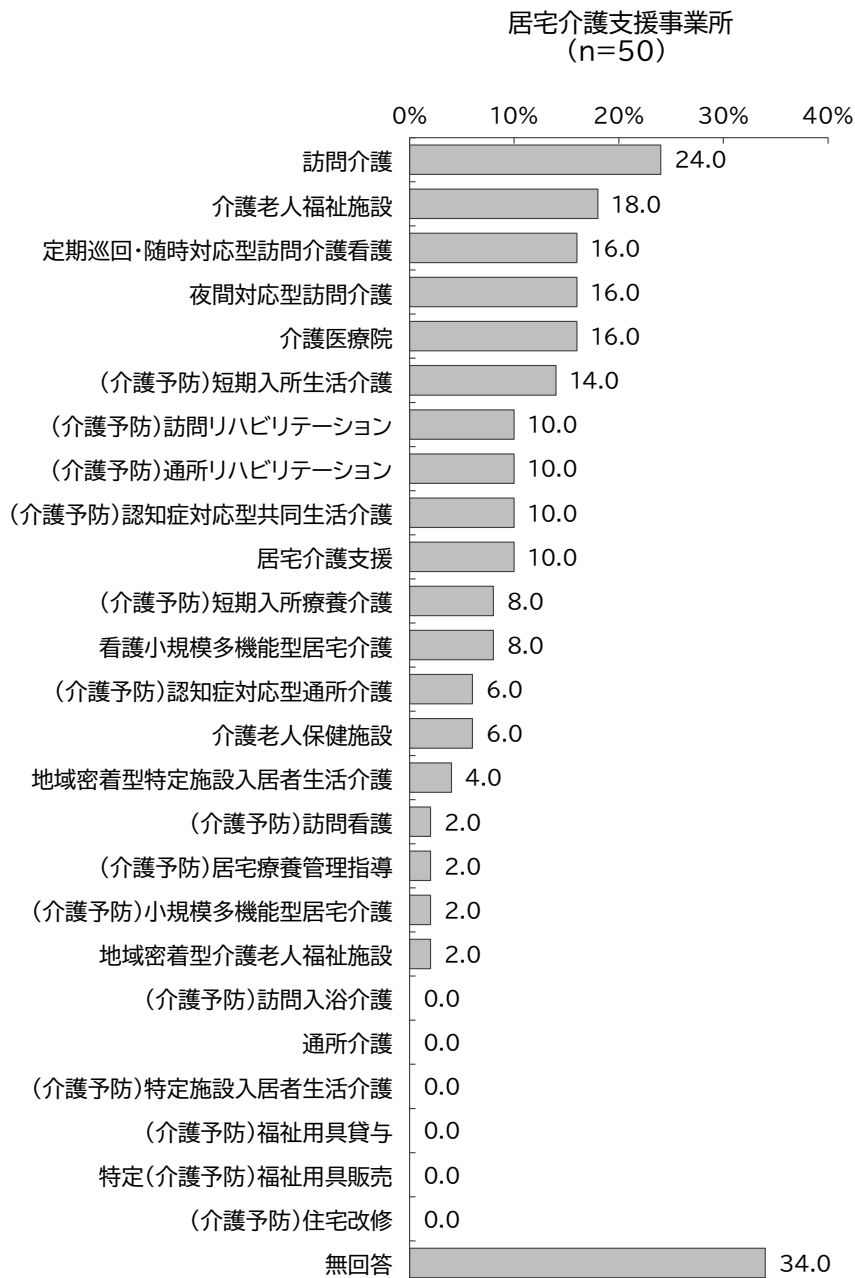
高齢者全般の調査結果（17 ページ）と比較すると、高齢者全般は「認知症の人やその家族の声を反映した取組」や「早期発見・早期診療の仕組みづくり」、「認知症の人を見守るボランティアの養成（認知症サポーターなど）」、「講演会等による認知症に関する正しい知識の普及啓発」が多く、立場による差がみられる。

本市の介護サービスについて

《居宅介護支援事業所：問 11》

大和市で、事業所が不足していると思う介護（介護予防）サービスはありますか。市全体で不足していると思うサービスの番号を次ページの地図下段に、地区によって不足していると思うサービスがある場合はA～K地区それぞれのカッコ内に番号で書き込んでください。（それぞれ複数回答可）

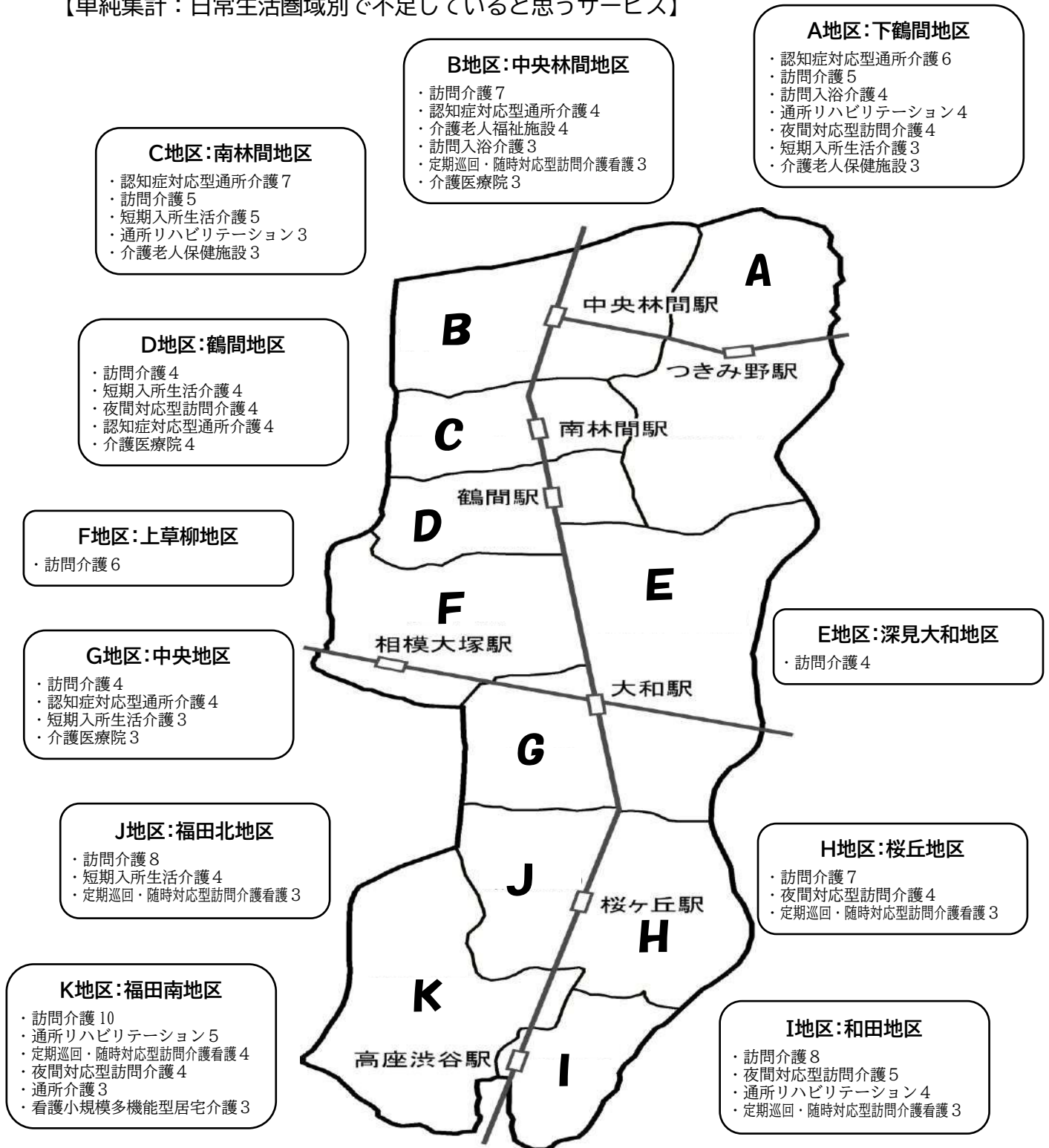
【単純集計：市全体で不足していると思うサービス】



※「居宅介護支援」は、その他の具体的内容として多く記載されていたため、集計時に追加した選択肢である。

大和市全体で不足していると思うサービスは、「訪問介護」が24.0%と最も多く、次いで「介護老人福祉施設」が18.0%、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」、「夜間対応型訪問介護」、「介護医療院」がそれぞれ16.0%などとなっている。

【単純集計：日常生活圏域別で不足していると思うサービス】



居宅支援事業所（n=50）

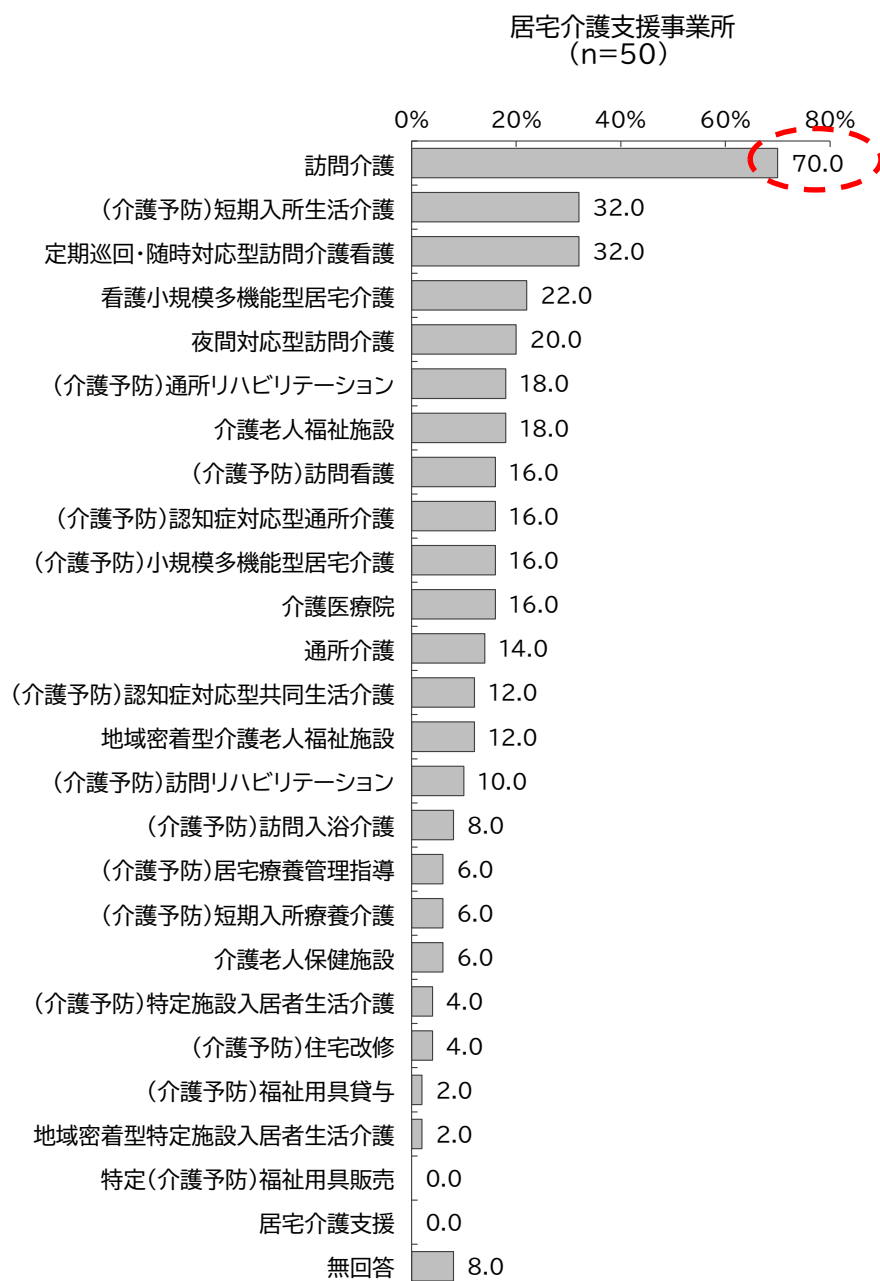
※数値は、不足を指摘した事業所数（3事業所以上を掲載）

日常生活圏域別で不足していると思うサービスは、A～D地区・K地区において5種類以上と多くなっているのに対し、E～F地区においては1種類のみと、日常生活圏域による差がみられる。また、最も不足を指摘する声が多いのは、K地区における訪問介護（10事業所）となっている。全体的に「訪問介護」や「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」、「夜間対応型訪問介護」が多いことから、訪問系の不足が問題視されていることがうかがえる。

《居宅介護支援事業所：問 12》

それでは、今後の大和市中、特に需要の増加が見込まれる介護保険サービスはどれだと考えますか。(複数回答可：5つまで)

【単純集計】



※「居宅介護支援」は、問 11 でその他の具体的内容として多く記載されていたため、同じ選択肢を設けているこの問にも集計時に追加した選択肢である。

今後の大和市中で特に需要の増加が見込まれる介護保険サービスは、「訪問介護」が 70.0%と最も多く、次いで「(介護予防)短期入所生活介護」、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」がそれぞれ 32.0%、「看護小規模多機能型居宅介護」が 22.0%などとなっている。また、不足していると思われるサービス(40 ページ)と同じく、「訪問介護」が第 1 位となっている。

VI 調査の結果（居所変更実態調査）

《居所変更実態調査：問5》

過去1年間（令和6年4月1日～令和7年3月31日）に、貴施設等に新規で入居した人の人数をご回答ください。（数値回答）

【単純集計・クロス集計：サービス種別】

	件数	合計 新規入居者数	平均 新規入居者数
合計	23 件	297 人	12.9 人
住宅型有料老人ホーム	9 件	229 人	25.4 人
軽費老人ホーム	1 件	2 人	2.0 人
サービス付き高齢者向け住宅	13 件	66 人	5.1 人

平均新規入居者数は12.9人となっており、サービス種別にみると《住宅型有料老人ホーム》で25.4人と多くなっている。

《居所変更実態調査：問7》

過去1年間（令和6年4月1日～令和7年3月31日）に、貴施設等を退去した人の人数をご回答ください。（数値回答）

【単純集計・クロス集計：サービス種別】

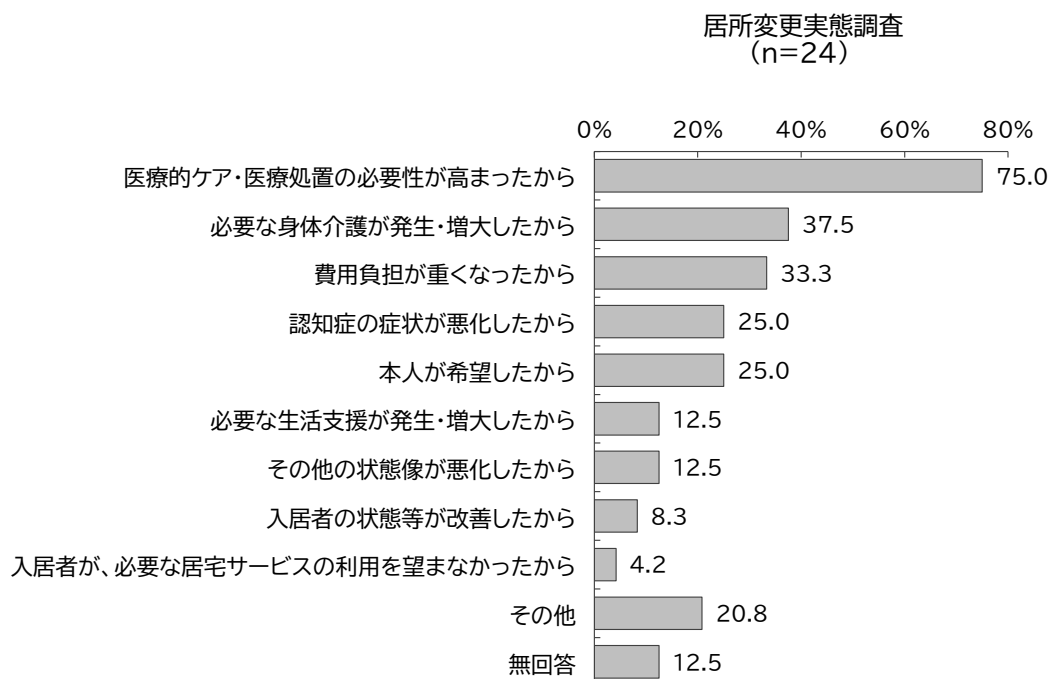
	件数	合計退去者数	平均退去者数
合計	23 件	238 人	10.4 人
住宅型有料老人ホーム	9 件	172 人	19.1 人
軽費老人ホーム	1 件	2 人	2.0 人
サービス付き高齢者向け住宅	13 件	64 人	4.9 人

平均退去者数は10.4人となっており、サービス種別にみると《住宅型有料老人ホーム》で19.1人と多くなっている。

《居所変更実態調査：問 10》

貴施設等の入居者が、退去する理由は何ですか。退去理由として多いものを上位3つまで選んでください。(複数回答可：3つまで)

【単純集計：第1位～第3位合計】



※上位3項目を回答してもらい、それらを順位不問でまとめて集計した。順位別の割合は下表参照。

【単純集計：第1位～第3位】

	調査数（施設）	多い退居理由（％）										
		医療的ケア・医療処置の 必要性が高まったから	必要な身体介護が 発生・増大したから	費用負担が重くなったから	認知症の症状が悪化したから	本人が希望したから	必要な生活支援が 発生・増大したから	その他の状態像が悪化したから	入居者の状態等が改善したから	入居者が、必要な居宅サービスの 利用を望まなかったから	その他	無回答
単位：％												
合計	24	75.0	37.5	33.3	25.0	25.0	12.5	12.5	8.3	4.2	20.8	12.5
第1位	24	54.2	8.3	4.2	0.0	4.2	12.5	0.0	4.2	0.0	0.0	12.5
第2位	24	12.5	20.8	16.7	12.5	8.3	0.0	8.3	0.0	4.2	4.2	12.5
第3位	24	8.3	8.3	12.5	12.5	12.5	0.0	4.2	4.2	0.0	16.7	20.8

入居者が退去する理由は、「医療的ケア・医療処置の必要性が高まったから」が75.0%と最も多く、次いで「必要な身体介護が発生・増大したから」が37.5%、「費用負担が重くなったから」が33.3%などとなっている。

順位別にみると、順位が高くなるほど「医療的ケア・医療処置の必要性が高まったから」、「必要な生活支援が発生・増大したから」が多くなっている。